

	書名	読んだ人数	トータル	平均
21	奴隷になったイギリス人の物語-イスラムに囚われた100万人の白人奴隷	4	15	3.75
22	死刑執行人サンソン	37	153	4.135135
23	フランス反骨奇人列伝	19	79	4.157895
24	大英帝国という経験	1	1	1
25	「最悪」の仕事の歴史	22	57	2.590909
26	感染地図 - 歴史を変えた未知の病原体	11	37	3.363636
27	1859年の潜水艇 - 天才発明家モンテウリオールの数奇な人生	3	10	3.333333
28	大冒険時代 - 世界が驚異に満ちていたころの50の傑作探検記	3	11	3.666667
29	博士と狂人 - 世界最高の辞書OEDの誕生秘話	6	22	3.666667
30	流線形シンドローム - 速度と身体の大衆文化史	13	36	2.769231
31	世界最高額の切手「ブルー・モーリシャス」を探せ!	18	50	2.777778
32	私はフェルメール - 20世紀最大の贋作事件	15	53	3.533333
33	ロスチャイルド家と最高のワイン 名門金融一族の権力、富、歴史	4	14	3.5
34	ヒトラー最後の12日間	24	67	2.791667
35	シャドウ・ダイバー	6	23	3.833333
36	眠れない一族 - 食人の痕跡と殺人タンパクの謎	13	45	3.461538
37	戦争広告代理店	19	86	4.526316
38	自動車爆弾の歴史	7	14	2
39	カラシニコフ	37	156	4.216216
40	絵はがきにされた少年	18	76	4.222222

奴隷になったイギリス人の物語-イスラムに囚われた100万人の白人奴隷

著者名	ジャイルズ・ミルトン	発行年	2006年
出版社名	アспект	ページ数	394ページ
値段	2,200円	ISDN	978-4757212114

奴隷 = 黒人なんて思いこんでいませんか。これはイギリス人奴隷のお話。

船ごとイスラムにさらわれて、スルタンの奴隷として虐待され、改宗されられ、壮絶なる艱難辛苦。そんな冒険談として読んでよいし、スルタンが痰を吐くと、それを地面に落としてはならないため、周囲の男たちがハンカチで受けとめる、ちょっとユーモラスな光景を珍しがってもよい。

それにしても、17-8世紀のヨーロッパでは、これがあたりまえの事態だったとは。なるほどヨーロッパにとって、イスラムという敵は深く深く骨肉に食い込んだ敵なのだとな納得。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
さっく	9-402	かなり多くのヨーロッパ人が奴隷として捕らえられていたということはこの本ではじめて知り、とても衝撃を受けた。現在の、イスラムVSキリストという構図の根本の一つであるように思った。 また、白人たちが捕らえられた人々の解放に苦心する一方で、自分たち
2008/08/13 11:23:57	393P (400分)	

		が行っている黒人奴隷貿易にはまったくの疑問・同情を示さないようすは不思議ではあった。
crystal	9-406	今から300年前、アフリカには100万人ものヨーロッパ人が、黒人の奴隷として存在していた、という事実は本当に信じがたい。世界的な規模でいえば、欧州の民族が様々な大陸の民族を殺戮・奴隷化していた数のほうが、圧倒的に多いことは間違いないと思う。また、それが今の文明・貧富の差として顕著に表れている。この本を読みながら、奴隷としてのヨーロッパ人の存在を知り、当然、ありうる話だろうと思うのと同時に、ではどうして圧倒的にその逆、つまり白人による黒人の奴隷化の方が多かったのか、疑問にもつのではないだろうか。その答えの手がかりは、当サイトでも紹介されている「銃・病原菌・鉄」で見つかると思う。
2008/06/19 14:54:11	398P (240分)	
たっきー	223-242	自分には特に信じる宗教がないので、改修という行為がここまで重いものだとは知りませんでした。
2008/06/10 12:07:07	20P (20分)	他にも面白そうなところはたくさんあったんですが、時間の関係で読めませんでした。もう一度機会があったら読みたいです。
	223-242	
のり子	105-136, 161-187,	1600～1700年代、現在のモロッコ周辺にあったイスラム王国での話。ここでは、ヨーロッパの白人たちを奴隷とし、主に宮殿建設のために酷使していた。
2008/05/02 15:28:15	59P (60分)	この時代の人々は、奴隷制に関して、倫理的な問題を感じなかったのだろうか。

[TOPへ](#)

死刑執行人サンソン

著者名	安達正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISDN	978-4087202212

仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
読書中	1-136	重くて難しそうな本なのかなと思って最初は避けていたけど、人気があるみたいなので読んでみたら、意外と読みやすい文章だった。フランス革命の頃の話で、有名な事件や人物がからんでくるので、面白く読める。処刑方法の詳しい描写は、結構グロテスクでした。
2008/08/18 00:13:17	136P (120分)	
ksk	1-241	小説感覚で読める本。死刑執行人というと冷淡なイメージがありそうだが、サンソンの苦しみや葛藤が描かれていて、むしろより人間

2008/08/11 15:06:25	241P (360分)	らしさを感じた。 普通に面白い。
SEM	8-241	死刑執行人という歴史の教科書には載ることのない人物の視点から描かれた歴史というものに新鮮さを感じました。
2008/08/02 17:34:02	234P (210分)	死刑のない世の中にしたいというサンソン思いとは裏腹に革命が進むにつれ次々に死刑が執行され、さらには自らの手でルイ16世の処刑を行うことになるとは...。それでも生き抜いたサンソンにその強さを感じました。
ひさひさ	1-46	
2008/07/22 14:47:12	46P (30分)	死刑執行人は、嫌な仕事をするうえ、隔離されてつらい職業だと思った。
Nimrod	P.85-P.136	フランス革命から死刑廃止論の黎明まで、結局どの国でも処刑制度に関しては同じような歴史をたどっている。
2008/07/22 14:32:42	52P (30分)	現在では最凶の処刑器具に見えるギロチンが実は苦痛を伴わないようにするための配慮だったとは。恐怖政治が敷かれる直前、死刑廃止に反対した貴族の多くがその後処刑される側の人間になったとは。
	P.90付近	歴史は常にセンセーショナルだ。
pato	8-241	死刑執行を任された一族の話。
2008/07/22 12:58:03	234P (300分)	読んでいて、日本における部落の話思い出した。
	207-241	
ヨーロッパ大好き	1-241	いろんなことをすごく考えさせた作品。
2008/07/13 22:35:31	241P (180分)	なんとなく高校の歴史で出てきた死刑される王族のことを思い出させた。
鱒鮭	1 239	生々しくも死刑執行人という職業を描ききった作品。
2008/07/08 11:38:21	240P (150分)	今までファンタジーの覆面で荒くれでマッチョなイメージしかなかったこの職業に対し新たな思いが芽生えてしまった。
		導入部分からその悲しみを前面に押し出し、内容が進むにつれ様々な思いが駆け巡り、後味悪くも読みごたえのある1冊でした。
結花	8-241	死刑執行人の心の葛藤を描ききった注目の一冊。
2008/07/04 16:35:15	234P (100分)	執行人の日常から、死刑前後の胸中、死刑にまつわる色々な話、全てが歴史で学んだ遠い世界を身震いのするほどリアルに想像させる。
	181-199	立ち読みポイントで挙げた国王の死刑執行のみでなく、罪無き幼い少女を自らの手で殺してしまう彼の葛藤が、悲しくも忘れてはならない真実として淡々と綴られている。
のべ	1-46、86-241	ルイ16世の処刑をすることになった時のサンソンの心理描写がとてもしリアルで、苦悩が伝わってきます。
2008/07/02 22:02:20	202P (180分)	今まで死刑を執行する側の事を少しも考えたことが無く、死刑についてそんなに興味も無かったので、そのような事を考えるいい機会になりました。テレビなどで死刑について話題になった時、「死刑ヨクナイヨ。人は殺しちゃダメダヨ。」と軽々しく話すコメンテーターをよく見かけますが、そんな薄っぺらな死刑廃止論よりもずっと重く、そして的確に死刑の問題点を指摘してくれたので、とても勉強になりました。
		また、死刑とは関係ないですが、「なぜルイ16世が処刑されたか」ということなども詳

	178-198	しく書かれており、この時代のフランスをよく知る事ができると思います。
crystal	1-47	序文しか読んでいないが、とてもおもしろそうだと感じた。
2008/06/30 16:55:26	48P (30分)	死刑執行人は予想通り社会から迫害された存在ではあったが、死体を多く扱うだけに腕利きの医者であったし、免税や副収入などで非常に裕福ではあったし、恵まれない人にはパンのほどこしや医療費を無料にしている一部の人間に尊敬されていたし、またとてもハンサムで遊び人であった人もいたとは驚きだった。お勧めしたい。
ポンプUno	1-253	裁判で死刑判決が下る限り、死刑囚の命を絶つという過酷な役目を誰かが負わなきゃいけない。
2008/06/25 15:34:27	253P (180分)	死刑制度にたいしては今まで意見を出しあぐねていたが、この本を読んでますます頭が混乱してきた。
		死刑には死刑執行人の存在が不可欠であり、またそこに大きな苦悩がある。このことは死刑制度への賛否に関係なく誰もがはっきりと認識しておく必要があると感じた。
たっきー	8-239	こんなに残酷な刑罰があるのかというものの存在や、死刑執行人というものが、
2008/06/23 14:41:57	232P (240分)	世の中からどのような扱いを受けてきたのかが書いてありました。
	58-68	刑罰の具体的な内容などが描写されている場面は、想像するだけでもゾッとしました。
モンモンモン	1-241	高校で世界史を選択していたので、聞き覚えのある単語がちらほら出てきて懐かしかった。マリーアントワネット、ハプスブルク家、ヴォルテール...
2008/06/19 15:31:09	241P (240分)	処刑人シャルルアンリの苦悩が事細かに綴ってあり、ついつい応援したくなる。たまに処刑シーンをリアルに描いている場面があり、グロテスク好きな東工大生には合うかも。
さわら	1-241	処刑執行人の内面についてよく描かれていて、読んでいて共感できる部分が多かった。
2008/06/19 14:41:34	241P (180分)	序章最後のシャルルアンリの自己弁論と、四章の処刑当日から反革命派の僧侶がミサを行っているところまでが、シャルルアンリの苦悩っぷりとかがよく出ている、個人的には面白いと思ったところ。 また、ルイ16世の人となりについても読んでいて興味深い内容だった。
	41-46, 178-199, 207-217	ただ、途中でギロチンについて説明しているところと、最後に死刑制度反対を連呼しているところは、読んでいて少し萎えました。 続きが気になって最後まで一気に読んでしまった本。
Www	8-84 109-117 175-203	みんなの評価が高かったから読んでみたが、やはり面白かった。革命当時の町の雰囲気は異常なほど盛り上がって他に違いない。ギロチンの発明や、死刑に対する倫理的な考えの変化などがストーリー化されているのでよかった。特に主人公に近いように書かれてい
2008/06/17 11:35:12	115P (100分)	

	109-117	たのが惹きつけられた。
yew	1-241	ものすごくおもしろかった。 死刑執行人という特殊な職に就いた人間のドラマをとて魅力的に描いている。フィクションなんじゃないかと思うくらいにドラマティックな展開が目白押しで、とにかく読ませる。
2008/06/16 14:36:10	241P (150分)	文章には作家的想像力が豊かに働いており、たいへんに映像喚起力が強く、まるで映画を観ているような感触を覚えた。
	8-21	人間が人間を死をもって裁くということの意味を考える上において、この本はたいへんに有益な情報を提供してくれる。
hiro	1-241	死刑執行人とタイトルにあるので、冷酷な人間の話なのかなと思って読み始めたら、そんなことはなく、むしろ死刑執行人も普通の人間であり、サンソンを含め、死刑を執行する人間の大変さや苦悩を感じました。死刑について考えるいい機会にもなったと思います。
2008/06/10 16:08:31	241P (120分)	また、ルイ16世の人柄、フランス革命の隠れた一面なども垣間見えて非常に面白い本でした。
	176-198	
sufjan	1-239	おもしろい。
2008/06/10 12:28:01	239P (240分)	死刑執行人て精神的につらいね
	4章	
pocky	1-253	最初、死刑執行人サンソンというタイトルからサンソンはなんとなく残虐なイメージでした。しかし、読み進めていくと、死刑執行人も普通の人で仕事も誇りに思っているのだとわかりました。フランス革命の頃の激動の時代を感じ取れておもしろかったです。
2008/06/10 10:45:36	253P (120分)	
	191-199	
は る ゆ き	1-46,85-136,177-241	題材は非常に重いものですが非常に読みやすいです。ただ、グロイのが苦手な人はちょっときついかもしれません。
2008/06/09 13:10:00	161P (150分)	これを読むとただ残虐なイメージだけが先走りしている死刑執行人に対するイメージがごとごとく覆されます。特に41-45のシャルル・アンリの自己弁論は必読。非常にかっこいいです。
	41-45	
camel	8-239	おもしろすぎて濫読できなかった。 死刑執行人なのにかかなり今風な考え方をするサンソンに感動しつつ、応援してしまう。
2008/06/09 12:44:08	232P (180分)	八つ裂きの刑(?)のエグさに目が覚めます。
	41-45	あと「1789年にフランス革命」程度の知識しかなかった自分にとっては普通にいい勉強になりました。
mizuhara	8-241	フランスの死刑執行の歴史の中で、ルイ16世のギロチンから恐怖政治と言う、最も怖い時代についてのお話。
2008/06/04 17:19:30	233P (120分)	死刑執行人の身分差別や、死刑に対する葛藤等、様々な要素が盛り込まれていて、内容は深いです。また、ルイ16世とサンソンとの人間的つながり、サンソンの死刑執行までの心の動きなど、小説をのように、描写されています。
		悪いところは、他の人のコメントにもありま

	177-218	すが、作者の思想が入っているところと、血が駄目な人には読めないところです。
goran	P1-P239	死刑執行人一族が書いた「記録」に基づいて、執行人の心情を表現しつつ、作者が客観的にフランス革命時代の歴史に即して死刑執行人の人生について書いた作品であり、読みやすい。
2008/06/03 19:47:07	239P (150分)	また、個人的にギロチンが作られた歴史背景が意外だったので、その箇所は読んでほしい。
	なし	ノンフィクションの作品にもかかわらず、最後に作者の思想が多分に入っているのが余計だった気がする。
ぜんまい	8-46	「事実は小説より奇なり」とはバイロンという詩人の言葉であるようだが、正にそのような物語の始まりを感じました。全部読みたいですね。絶対に経験できない(と思われる)人生を経験した気分になれるのが本の良さの一つですかね。
2008/05/27 12:36:27	39P (30分)	
ivane	8-12,21-29,86-155,178-199,220-230ページ	ギロチンの誕生の部分を中心に読んだので、強烈でした。他の方のコメントを参考に、終章の「その日は来たらず」を追加で読んでよかったです。
2008/05/26 16:59:24	117P (70分)	
	86-155と220-230ページ	
本多小松	1-239	とても読みやすくサクサク読めます。内容は死刑執行人のある歴史について書かれています。いろいろと死刑について考えたりもしてしまったり、また執行側の苦悩もわかるような気がします。未読の方は一度読んでみてはいかがでしょうか？歴史が苦手という方でも読めると思います。
2008/05/21 17:33:45	239P (160分)	
特になし	1-239	余分な肉付けがなく死刑執行人のサンソンのみにスポットをあてて描かれている。刑の残虐さ、理不尽な差別、執行人の苦悩についてとてもうまく書かれていると思う。なかなかお勧めの一冊です。
2008/05/20 12:46:18	239P (200分)	
	37-46	
マーシャル	7-239	罪人を処刑すること仕事を代々受け継いできた死刑執行人の苦悩がよく描かれている。死刑執行人を通して見たフランスの歴史も学ぶことができ、面白くて一気に読んでしまった。おすすめの一冊です。
2008/05/19 16:57:54	233P (400分)	
	137-218	
SOUTHERN (° °)!	7-239	~革命というと「誰々が殺されて、こういう国にかわりました。」のような感じで教科書を読んだ記憶がありますが、マクロな歴史をミクロな「死刑執行人の歴史」から裏側をながめることで、人間の歴史の生々しい複雑かつ多様な模様が浮き上がってきました。当時は裏も表もない事実なのでしょうが、今みってみると、主役はモノポールなものではなく、裏主役がかならずいるんじゃないかなあ~と思いました。
2008/05/15 11:08:27	232P (360分)	多少生々しいですが、人間だって生きているのですから、生っぽくていいとおもいます(笑)
	7-46,85-136	
contax139	8-84	死刑執行人という職業一般についても描かれているが、サンソン家に注目していることで、理解しやすかった。
		そして、サンソン家は、死刑執行技術があるとともに、医学の知識も持ち合わせていたこと、そして、それは、忌み嫌われる仕事の一方で人の役に立つことで、自分達を納得させ

2008/05/14 10:06:23	76P (120分)	ていたのだと思う。 死刑囚が解放されるという事件が起こったとき、民衆の側からの死刑執行人への認識が描かれている部分が印象的であった。
	58-68,	
tormenta	8-239ページ	一気に読みきってしまいました。 でもそんなに面白くもなかったような...笑 ただただ生々しい描写ばかりが蘇ってきます... なんだかすっきりしない気分です。
2008/05/12 12:26:23	232P (270分)	死刑執行人の身分がとても高かったことが一番印象的でした。 職業的には差別を受けているかもしれないけれど、執行人はとても知的レベルが高く、国の役人だったんですね。 『最悪な職業』だけれども、身分は保証されている... ふくざつ...
	48-84ページ	
さっく	8-241	教科書の中の歴史でしか知らなかった出来事の中で、その当事者たちが何を考え、行動したのかが生々しく語られていて面白い。死刑執行人や処刑された人々の苦悩や立ち振る舞いには人間味があふれていて、自分の中で歴史が無機質なものではなくなっていくようだった。 面白かったのは、ギロチン誕生の2章。読んでいだけで辛くなってくるような処刑方法の数々を知って、ギロチンが人道的配慮でできたことに納得。
2008/05/01 18:20:30	234P (200分)	
	7-46, 85-136, 177-199	
つけめん	8-46 93-155 173-199 224-239など	死刑執行人の人生が当時のフランスの時代背景とともに語られた一冊。死刑の難しさと苦悩が事細かに書かれてあり、想像すればするほど気持ち悪くなった。死刑執行人がどんな暮らしをしていたかよく分かる。
2008/04/30 18:47:49	180P (150分)	
	93-103	血とかだめな人は立ち読みポイントは読まない方がいいかも。
メルハバ	8-241	2章から読みはじめたのですが、結局全部読んでしまいました。 ルイ16世がギロチンで処刑されるのは絵が社会の教科書にも載ってるくらいだから誰もが知ってる史実だけれども、この本はその絵に載ってる死刑執行人(とその一族)にスポットを当てた一冊。ギロチンが《自由と平等》の理想から生まれたとか言われると最初は信じられないけど、当時の処刑内容を読んで納得(笑)しかしながら、このギロチンができたせいで革命の時に必要以上の人間がギロチンの露と消えたのはなんという皮肉か。ルイ16世やマリー・アントワネットといったフランス革命の表舞台の人物は有名だけれど、その裏舞台にも興味ある人は、ぜひ。
2008/04/26 18:39:38	234P (120分)	
	85-136	
しゅーくりーむ	1-239	序章が非常におもしろい。死刑執行人という職業について、その背景などいろいろ知れて物語が楽しくなる。しかしながら、序章が終わると少しおもしろくなくなってくる。単調な死刑執行および執行人についてのストーリーが何度も繰り返され、何か引き込まれるものが少なくなっている話の中盤まで

2008/04/24 16:51:17	239P (250分)	<p>続く。最後まで読んでみると、死刑制度に対する自分の考え方、今まで知らなかった死刑を執行するという苦しみなどを知ることができ、とてもおもしろく勉強になる本だと思います。今から読む人には、最初の序章だけでも読むことを大いにお勧めします。</p>
	7-47	
パトロン革命	85-136 , 219-241	<p>もともと残酷な描写を極度に拒絶する性分で、この作品を手にしたのは、それを少しでも緩和したいと思ったからです。そのような視点から以下率直な感想を稚拙な文章ではありませんが述べたいと思います。</p> <p>自分が読んだ部分のうち、前半（85-136）に関してはショックの一言でした。フランスで人権宣言が採択されるまでは、非人道的な裁判がまかり通っていたことは想像に難くないわけですが、それにしても描写があまりにも過激で、吐き気を催したほどでした。しかし、めげずに後半を読んだところでようやく作者の本意を知ることができ、いささか救われた気持ちになりました。</p> <p>日本に目を向ければ、現在でも死刑廃止を叫ぶ声がやまないのは、このような歴史的背景 無実の人間が死刑によって命を落としてしまう時代 が少なからず影響しているのだろう、そして日本でも同様な惨事が繰り返されてきたことも事実としてあるからなのだろう、と感じました。また、改めて「死刑制度」の必要性、その意義について思慮をめぐらすいい機会を得ることができました（こうしている今も本書の内容を反芻しつつ、しかし未だに自分の中での結論に到達していないわけですが）。</p> <p>出だしは衝撃的でしたが、最終的には読んでよかった、という余韻が残っています。</p> <p>以上です。</p>
2008/04/23 16:35:07	75P (90分)	
	219-241頁	

フランス反骨奇人列伝

著者名	安達正勝	発行年	2006年
出版社名	集英社新書	ページ数	205ページ
値段	735円	ISDN	978-4087203370

昨年のサンソン人気にあやかってセレクト。革命期を生きた4名のいずれ劣らぬ気骨びと。太陽王ルイに、あるいはナポレオンに抗して敢然と己を枉げなかったところが、惚れ惚れと潔い。

とりわけ死刑執行人「大サンソン」の孫の懊悩のくだりは、しっかり作者の共感が乗っていて、ぐっと胸に迫ります。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ()分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
goran	3-217	死刑執行人サンソンを読んだのでついでに読んでみた。よりサンソン一家のことがわかるかも。
2008/08/18 23:50:35	215P (240分)	
	サンソンにかかわるところ	
読書中	1-38,153-214	モンテスパン侯爵と、六代目サンソンの話を読みました。今の感覚からすると、モンテスパン侯爵の主義主張の方が正当に見えるのに、侯爵は奇人扱いされてしまうという、当時の貴族のモラル感とのズレが面白かった。
2008/08/18 00:30:36	100P (90分)	

		また、「死刑執行人サンソン」を読んだ後だったので、その孫の六代目サンソンの話は、つながる内容も多くて面白く読めた。
さっく	3-80,154-214	
2008/08/15 16:46:26	139P (150分)	まえがきにもあるように、取り上げられた人たちは歴史上あまり脚光を浴びなかった人たちだが、どの人も、歴史に翻弄されながらもそれに立ち向かうような生き様が素晴らしかった。
	10-38	特に第四章は、前に『サンソン』を読んでいたのにより興味深かった。
Www	3-151	
2008/08/11 18:24:17	149P (100分)	サンソンを除く4人の物語を読んだが、ラスネールの話が一番面白かった。ダメ男なのかチャッカリしたやつなのか微妙なところが良い。さらに熱すぎて、悲しすぎるぞモンテスパン男爵！！
	9-39	
ポンプUno	1-151	
2008/08/11 14:59:35	151P (150分)	嫁を寝とったのがルイ14世であってもかまわず嘔みつくとは・・・度胸があるというか、命知らずというか。
		この本を読めば、少し前に流行った「鈍感力」とやらが身に付く、かもしれない。
sours	1 - 205	
2008/08/08 00:13:27	205P (120分)	最後まで読むつもりは全くなかったのだけれど、あと少しだけ、あと少しだけ、と思っているうちに全部読み切ってしまった。そのくらい読みやすく、また、面白い本(ただ、フィクション感が強いので、やや嘘臭い感じはあるが)。
		個人的には、どこか自墮落的な匂いがするラスネールの話が好き。
しゅーくりーむ	1-217	
2008/07/31 14:31:15	217P (130分)	みんなが死刑執行人サンソンとともに読むことをお勧めしているので サンソンを比較的早い時期に読んでブームに火をつけた(?)自分も読んでみよう って結構面白い! サンソンよりこっちの方が好きかも。サンソンゴメン
pato	3-217	
2008/07/22 13:03:35	215P (240分)	「死刑執行人サムソン」と合わせて読むことでおもしろかった。こちらは章ごとにまとまっているので特定の章だけ読むのもいいかも...
	153-214	
P-ball	3-205	
2008/07/15 00:31:01	203P (150分)	他のみなさんが挙げている「死刑執行人サンソン」読みたくなりました。
	二章	変人列伝ってなってるけど登場人物に憐れみというか、寂しさを感じずにはいれませんでした。
camel	10-214	
2008/07/14 22:32:22	205P (120分)	サンソンが面白ければ本書も間違いないでしょう。
	154~	ほんとオススメ。
モンモンモン	1-217	
2008/06/28 16:38:17	217P (240分)	「死刑執行人サンソン」が好きな人は必見。 安達さん(筆者)の書き方が、うまかです。
		奇人でも応援したくなってしまいます。
mizuhara	3-38 81-229	
2008/06/26 16:37:43	185P (150分)	死刑執行人サンソンと合わせて読む事を強くオススメします。特に、先に読んでおくことをオススメします。
	143-214	社会に受け入れられず社会と戦う事を決め、不幸な一生を終えるラスネール、死刑制度というある種の社会と戦いつつも、そのラスネールの首を落としたサンソン。それぞれに社会に反しているとはいえ、確固たる主張を持って生きた人たちの生き様が見られます。
白猫	1-151	
2008/06/24 09:59:59	151P (150分)	当時のフランスの様子が 変人の視点から描かれており面白い。
	81-151	結果的に不幸な結果に終わってしまうものの、 皆きちんと主義主張を持っており、 そこまで強い意志を私は持たないので、 私もがんばろうと思った。
メルハバ	3-5、81-217	
2008/06/19 18:21:51	139P (90分)	『死刑執行人サンソン』を読んだ後に読みました。この本のポイントはタイトルにもある『反骨』にあると思います。今だったら当然だと思われることが通用しなかった時代。そんな中で「それはおかしいだろ!」と訴えた人々のストーリーです(今でも変だと思われるような人も入っていますが)。個人的にはサンソンの話が面白かったです。一族が200年かけて築き上げた財産を数年で使ってしまうというろくでなし(ギロチンを質に入れてしまう始末!)で、 とどめに死刑人をクビになってしまうという一族の名折れだけれど

	198-214	も、最後の最後でサンソン家の大功労者へと変貌をとげる。これはまさに彼が大好きだったギャンブルみたいな人生ではないかと思った。
じゃがいも	81-214,1-38	<p>犯罪者詩人，ラスネール！ 絵を見るに，なかなかのイイ男． 彼曰く「自分を裏切った社会への反逆」である犯罪の動機は言い訳がましく，幼い． 人生演出力というか，詩人の栄光も犯罪者の醜い心もイイように解釈して大満足でギロチンに立てたのだから，彼は幸せだったのではなかろうか．</p> <p>僕の心の声「独房でひたすら書き続けるってのもいいなあ．」</p> <p>そんなラスネール死刑を執行した6代目サンソンが次の章の主人公．これから読んでみます，</p>
2008/06/05 17:30:45	172P (200分)	<p>&lt;追記.6/9&gt; サンソンも読みました．嫌で嫌で仕方ない仕事をしなければいけない上に，その仕事の人々から忌み嫌われ感謝もされない，そんな家に生まれたら僕は耐えられません．嫌なモノを嫌と言っていい時代が訪れようとしている時だったからこそ，死刑執行人に生まれた以上そういうものと割り切ることすらかなわず，先代以上に葛藤も大きかったろう．</p> <p>この本の変人とは，時代時代の当たり前を受け入れず自分の価値観で行動した人たちである．今見てもやっぱり変人なラスネール，今なら常識人サンソン．どちらにしても，生まれた時代に染まらなかったために逆に時代に翻弄されてしまう．</p>
	81-151，はじめに	<p>語り口が物語調なので，著者の想像が大分入っているが，非常に読みやすい．</p> <p>&lt;追記&gt;寝取られ男モンテスパンを読みました． 妻を国王に寝取られ，空の棺を引いて街をパレードしたり(妻は自分の中で死んだと喪に服してみせた)，妻が公的寵妃から外れたあとも受け入れなかったり，妻の「裏切り」に厳しいモンテスパン． 気持ちはとても分かる．夫人は王宮でイイ暮らしをしておきながらモンテスパンがパリに来ることを恐れて，モンテスパンを経済的に苦しめたりもするのだ．僕も読みながら夫人が憎くて仕方がなかった．しかし晩年のモンテスパンは妻への本当の思いを明らかにする．良い話を読ませてもらった．</p>
SOUTHERN (° °)!	39-214	僕も、「死刑執行人サンソン」を読んだ後にこの本を読みました。
2008/05/29 10:20:16	175P (200分)	アンリ-クレマンは死刑制度に疑念を抱き、廃止を世に訴えています。今、日本で死刑制度に関して賛否両論が飛び交う中で、死刑を生でおこなってきた一家の生の声は、死刑制度賛成派の私にもう一度それらについて考えるいい機会をくれたと思います。
	153-214	
石川です。	1-14.39-153.215-217	犯罪者詩人ラスネールが魅力的です。
2008/05/15 19:10:53	130P (200分)	その人のエピソードはもちろんのってますが、ほとんど同じ時代の人物なので時代背景もわかって楽しく読めました。
	3-5	
パトロン革命	154-214	『死刑執行人サンソン』を読んだ後だったので手にしました。本作品では『死刑執行人サンソン』（以下「前作」と略）の主役の孫にあたる6代目サンソン家当主の話でした。折りしもフランスで死刑制度が廃止となり、6代目はサンソン家最後の死刑執行人となったわけです。前作との関連性が高く、「死刑制度」の歴史を最後まで見届けた、という感じが、読みきった感が味わえました。
2008/05/14 19:49:23	61P (70分)	読んでいるうちに「死刑制度」そのものについて考えさせられましたし、裁判のあり方についても思いを巡らすことができました。失われた命の重さや尊さも伝わってきたので、決して「重たいだけ」の作品ではないことを保証します。
	168-169	

弟子	全部	<p>注意：この本は、22番『死刑執行人サンソン』の本を読了後に読むことをお勧めします。</p> <p>彼四代目サンソンこと、シャルル-アンリ・サンソンについての苦悩と決断を知っておくことで、23番『フランス反骨奇人列伝』の第四章『六代目サンソン』をよりおいしく楽しむことができます。それはもう格別においしくいただける事この上ないことは保障いたします。</p>
2008/05/12 04:46:41	205P (100分)	<p>地動説が世界規模で認知され終わっている今だからこそ、ガリレオ・ガリレイに異を唱える人はまずいないであろう。地球が太陽の周り回っているという事実はほとんど普遍的なものとして教科書に記されている。しかし彼が地動説を唱えたころは違った。17世紀初頭において地動説は異端であり、唱えたガリレオ・ガリレイはローマ教皇の手によって訴えられた。</p> <p>それは仕方のなかったことである。彼の提唱した地動説には明確な科学的証拠もなく、また地動説について書かれている「天文対話」には教皇に対する侮辱ととらえられてもおかしくない記述があった。彼が宗教と科学を切り離そうとしたのも悪影響だった。異端の徒と思われるのに十分な証拠が揃いすぎていた。結果彼は異端扱いされる事となった。</p>
	第三章	<p>この本『フランス反骨変人列伝』に出てくる人物もまた、異端の扱いを受けたものたちである。今にしてみれば奇妙とも不可思議とも不条理とも思えるような社会の制度の中、それを盲目的に信じて生きていく人々をよそ目に、社会という大きな制度に反して自分の型を貫いた人々のお話である。彼らにはガリレオ・ガリレイのような正当性は無いかもしれない。時に犯罪に走り、時に仲間を裏切り、時に不本意ながらも死刑を執行して生きてきたものもいる。しかしそれは彼らの信念に他ならない。生きていくという真っ直ぐな信念に社会という壁がぶつかったただけに過ぎないと私は思う。</p> <p>第三章『犯罪者詩人、ラスネール』の中で、ラスネールが残りの人生を社会の復讐のためにさながら劇のように演じた様に、彼らもまた演じたのかもしれない。ひねくれた社会制度という舞台の上で、大勢の観客のブーイングを聞きながら、「それでも地球は回っている」と叫んでいたのかもしれない。</p>

大英帝国という経験

著者名	井野瀬久美恵	発行年	2007年
出版社名	講談社	ページ数	362ページ
値段	2,300円	ISDN	978-4062807166

植民地アメリカを喪って大打撃のはずなのに、そのあと世界制覇を成し遂げ得た奇跡。うねりの波間に浮かぶアイルランド貴族のフローラやアフリカ奴隷のサラ、そしてもちろんクイーン・ヴィクトリア。大英帝国万華鏡。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
のり子	13-22,132-165,207-245,295-322,336-337,344-354,364-375	まず、210～230ページあたりを 読んでみた。 次に、132～163ページあたりを 読んでみた。 何が言いたいのかよくわからな い。。。 ということで、「はじめに」と 「おわりに」「あとがき」を読 んでみた。

2008/06/05 22:35:26

134P (300分)

「イギリスらしさとは何か」が
テーマらしい。
私が漫然と読みすぎたせい
か、"アイデンティティ"のよ
うな抽象的なものをテーマにし
ているからなのか、
筆者が集めてきた大英帝国を語
る事柄の一つ一つから主張され
ることが何なのかよくわからな
い。
いや、もっと真剣に読めばわか
るのかもしれないが、
私的には、もうギブアッ
プ。。。

[TOPへ](#)

「最悪」の仕事の歴史

著者名	トニー・ロビンソン	発行年	2007年
出版社名	原書房	ページ数	310ページ
値段	2,800円	ISDN	978-4562041190

よくも集めたこれだけの3K仕事。ヴァイオリンの弦づくりが、そんなヨゴレ仕事だったなんて。

パラパラめくって気づくことは二つ。サイアク・コレクションで、いちばん多いのが職人さん。なるほど、ものづくりって命懸けだったんだ。次に多いのが都市の清掃関係。なるほど、密集都市の衛生を維持してゆくのは、ほんとたいへんだったんだ。

このなかからどれか一つ選べと言われたら、どうします？

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
purebred	114-127,159-175	授業で担当になって面白かった部分。きつそうなんだけど、働いている姿を想像すると滑稽。やりたくはないが。
2008/08/18 23:17:34	30P (20分)	
	159-165	
つばき	1-60	授業で取り上げられているときの、短編っぷりに惹かれました。

2008/08/18 21:53:56	60P (30分)	読みやすいけど、あまり心に残らないかな。。
ODN	P12-51	
2008/08/17 23:35:43	40P (30分)	みなさん言う通り単調なのでひろい読みが最適な本ですね。こんなにも最悪な仕事ってあるんだなっていう印象です。この作者がどういう人間なのかちょっと気になりました。
わくわくさん	1-150	
2008/08/17 04:11:50	150P (90分)	授業で扱っていたので読んでみたが、皆さんの言うとおり読み進むにつれて単調さを感じました。内容は本当に「最悪」な仕事についてなので、こんな仕事もあるのになって感じです。
鳩会社元社員	203-259	
2008/08/14 00:35:41	57P (60分)	酸素がこんなにも怖いものだとは知りませんでした。
	233-259	社会理工学研究科の人は授業ではほとんど「最悪な事故」には遭わないかと思いますが、特に危険な実験をする研究科、専攻の人は読んでおいて損はないと思います。
さっく	5-107、212-325	
2008/08/13 12:57:32	172P (180分)	ぱらぱらめくって気になった仕事をひろいながら読みました。 どの仕事も「最悪」というだけあって、大変というか命の危険にさらされるものも多く読んでいてつらくなりました。自分は絶対やりたくないぞと……。しかしながら、どの仕事もその時代においてはなくてはならないものだったようにも思え、歴史的背景など考えると興味深かったです。
しゅーくりーむ	67-110	
2008/07/31 14:25:33	44P (20分)	授業で取り上げられていたので まあこんな仕事もあるのかなみたいなことを知ってることはいいかもですが、 テンション下がる本です
男爵いも	1-325	
2008/07/16 14:23:49	325P (150分)	最悪の仕事の事例が沢山ありすぎて途中で飽きてしまいました。ぱらぱらとめくって気になった仕事について読むのがいいと思います。
	67-73	
mizuhara	5-62,269-329	
2008/07/09 17:49:16	119P (60分)	最悪の仕事のお話なので、読んでいてあんまり気持ちいいものではありません。
		ただ、あるものについて考えるときに、これはどうやって作られているんだろう？その材料はどうやって作られているんだろう？それを運ぶ線路はどうやってひかれたんだろう？それを作る機械はどうやって作られたんだろう？もし、その機械が無い時代にそれをやるとしたら？と、考えるとぞっとします。
シマウマ	一章とあとはこまごまと	
2008/07/03 21:59:12	100P (200分)	興味あるところだけ読めばいいと思います。みんないってますが単調です。
たっきー	1, 4章	
2008/06/30 14:27:18	107P (120分)	講義を聴いた感じではおもしろそうだったのに、意外と評価が低かったので、興味本位で手にとりました。 多くの人が書いてありますが、単調で読み進めるにつれ苦痛です。ただ、一つの仕事ごとについては知らないことばかりだったので、その点は評価できますかね。
ジョコビッチ	1-100	
2008/06/16 19:58:06	100P (120分)	文章が単調で、だんだん読み進めていくのが苦痛になった。題名には非常に魅かれたのだが... 「最悪」の言葉を連発しすぎだと思った。 原書を読んでいないので何とも言えないが、翻訳の仕方があまりうまくないのでは、と思った。
yew	11-62, 94-110, 212-282	
2008/06/11 21:45:09	140P (90分)	人間とは不思議なもので、意味がないとは言い切れないが限りなく無意味に近い仕事というものを創出し、報われないことを承知の上でその仕事に尽力してみたりするものである。 財務府大記録の転記はまさにそのような仕事だ。 財務府大記録に記されるのは確かに重要な情報である。 つまり、『決して完済されることのない王家に対する多額の負債』が記入されているのだ。
		社会システムがある水準を超えて複雑化すると「何のために何をしているのか」にわかには判じかねる仕事が発生的に生じるものである。 そのような仕事の風景には人生の皮肉と悲しみがあるように思えてな

	98-103	らない。
P-ball	12-321	授業で取り上げられていたので手に取ってみました。 時代ごとに最悪の仕事が紹介されているのですが、文章が単調なので後半は読むのに疲れてしまいました。
2008/06/02 18:59:26	310P (240分)	適当に10~20職種選んで読むのもいいかもしれません。 書かれている職種はどれも「最悪」の仕事にふさわしく、 読んでてむかむかするものも中にはありました。
	120	しかしながら「最悪」の仕事は大変興味を惹く仕事内容で、時間がゆるすならもっとじっくり読みたいと思いました。
まるきん	1-330	本の概要については皆さん書かれているので割愛します カイジに出てくる帝愛の会長の言葉ではないが、不当に他者を搾取しなければ、富の一極集中は起こらないという印象。こちらから見た不当さを不当と感じさせないための社会システムが出来上がっているためにこんな仕事ぜったいやりたくないと思う仕事に、従事する人がいるのだと思う。やっぱり資本家最強。
2008/05/31 01:25:00	329P (150分)	こんなのやりたくないくらいしか思えない自分には、社会主義は向いていない。おそらく。
	237-241 15-18	
本多小松	5-329	最悪な仕事時代の経過につれて描かれています。各時代ごとの最悪な仕事はどれも健康を害し、辛く汚い仕事選ばれいまでいう3Kをもつ仕事といったところでしょうか。しかし中には、社会のために必要である仕事も少なからずあり、その人たちがいなくてはならなかったのもあるでしょう。この本を読む前に処刑執行人サンソンを読みましたが、あれもやはり最悪でしたね
2008/05/22 08:25:33	325P (220分)	
のべ	1-110、212-244	題名の通り、最悪の仕事が描かれています。 最初の方は気持ち悪い仕事も多く、それが淡々と書かれているので読んでてちょっと気持ち悪くなるかもしれません。後半の最悪の仕事の中にはユニークなものもありそれは面白かったです。また、当時の生活を垣間みれるのでそこも面白かった点です。
2008/05/20 22:04:22	141P (120分)	ただ、冒頭で「昔の最悪の仕事を知ってみると、今の仕事はこんなに楽なんだよ」というようなことが書いてあり、文中でもたまにそういうことが書かれているので、年寄りが「昔はこんなに大変だったのに最近の若いもんは～」みたいな風に言われてる気がして嫌でした。
	212-244	
鱒鮭	5 329	授業で取り上げられたので一読。 各内容は短く簡潔にかつ濃くまとめられているのでそれほど飽きは来ないものの、さすがに分量が多いので少々食傷気味になりがち。 読むなら適当な場所をさっと読むの繰り返しがいいと思われま。
2008/05/20 12:36:02	325P (240分)	
		内容は最悪の仕事そのものであり、仕事内容から推測できる歴史の背景を感じ取れると面白味が増すかも。
白猫	1-122	授業で取り上げられた本。 分量もさることながら、内容もわりと(?)単調。 全部を読破するのは体力がいると思う。 一日一仕事くらいで読んでいくとおもしろいかもしれない。 まあ、一週間しかないのですが(汗
2008/05/13 09:33:29	122P (180分)	
	67-73	この本は英国版ですが、 日本版もあったら結構面白いと思いました。
石川です。	67-69,203-206,213-218	命まで張っている騎馬巡視官は 「ほとんど役に立っていないので、財源にとってのお荷物である」
2008/05/11 16:54:40	13P (20分)	
	213-218	とまで当時の報告書に書かれている。 これを見ると今の普通の仕事ってものに違った見方ができるかも。
つけめん	ところどころ	淡々と最悪の仕事の紹介がされている。 授業でも取り上げられていたが、そのとき取り上げられた仕事以外で面白そうなものはあまりなかった。 なんか想像しにくい。
2008/05/08 13:46:59	80P (60分)	
	178-180	
特になし	12-39	ローマ時代から近代までのさまざまな3K仕事について載っている。 ただ、直訳調で書いてあり日本語が読みづらい、仕事の内容を書いているだけで面白いエピソードなどはない、などの理由から読書意欲が
2008/05/02 19:05:01	28P (30分)	

感染地図 - 歴史を変えた未知の病原体

著者名	スティーヴン・ジョンソン	発行年	2007年
出版社名	河出書房新社	ページ数	261ページ
値段	2,600円	ISDN	978-4309252186

1854年、ロンドン、コレラ禍。死神は井戸を伝ってやってきた。
いや、悪いのは空気でしょう、という先入観と科学的精神がいかにか戦ったか。
私たちは、つい地図を眺めて「上から目線」でできごとをとらえてしまうけれど、現場を這いずりつつ、地図をつくることから始めた戦いの各シーンがスリリング。
歴史上の1エピソードと片付けず、都市なるものが今後どうなるか、著者はしっかり未来へと視線を向けている。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
アイを叫んだケモノ	35-90	科学が発展する程、人類は未知の病原菌に遭遇する。また、先進国においては多大な研究成果からほとんど治る病気でも、途上国において死亡率の高い病気という現状がある。この場合、途上国の人は不治の病としてとらえていることも十分に考えられる。

2008/08/18 12:30:59	56P (60分)	多くの犠牲の上になされた研究成果を広い範囲で活かす策をもっと考える必要があると思った。
	67-77	
ODN	P9-26	
2008/08/18 00:03:36	18P (10分)	私は最初から順に読んでいかないと気が済まない性分なので最初から読み始めましたが冒頭部分にはあまり盛り上がりがなかったのですぐ飽きてしまいました。
SBM	239-257	
2008/08/15 14:44:03	19P (30分)	エピローグでの話だけでも興味深い。分析の仕方が上手いと感じました。時間があったら最初からじっくり読みたい本です。
yossie	199-265	
2008/08/12 09:28:29	66P (150分)	前半のスノーとホワイトヘッドの物語を省略して、感染地図のその後と現在について著者が述べている部分を読みました。感染地図から始まり、現在の市民参加やインターネット上の地図について言及している部分が興味深く感じました。草の根の情報と分野間の横のつながりなど、今日において重要視される事項、都市の将来について考えました。
	206-214,226-236	
男爵いも	67-90,149-170	
2008/08/06 12:35:04	30P (44分)	スノーが病原菌の調査に取り組む姿勢や、発症の原因を調査しているところなどに感心させられた。
	149-170	
crystal	9-33	
2008/07/16 22:15:12	25P (20分)	病原菌が人類史に大きなインパクトを与えていたことについて、濫読をしている方ならば必ず一度は読んだことだろう。私も何度かそのような内容の書物を読んだが、この書物は病原菌に侵されたものの詳細まで書いてあるような気がし、若干恐ろしさを感じた。この手の本を読むと、本から病原菌に感染しそうな気分になる。
Nimrod	P.35-66,91-120,169-198	流行病とは、人類に何かを警告するために発生するものだという。本書で挙げられているコレラなら、水環境に配慮すべきとの警告。古くは黒死病、現代ならばエイズもそういった「サイン」と捉えられるだろう。
2008/07/15 11:26:43	92P (80分)	「眠れない一族」を読んだ時にも思ったが、病気の原因究明には多大な時間と労力がかかる。真相に行き着くためには、星の数ほどの誤った結論を乗り越えなければならない。しかし残念ながら、本書ではその「誤審」をまるで滑稽なもののように描写している。後日談としてみれば滑稽だとしても、当時の人々にとってはかすかな希望であっただろうし、それらの上に真実の把握が成り立っていることを忘れてはいけないだろう。
	特になし	
ポンプUno	67-238,266-277	
2008/06/14 00:22:54	184P (120分)	迷信や生理感覚に惑わされないことの難しさ、科学的な視点を保つことの大切さを学ぶことができました。とても面白かったです。
sugar	4-133	
2008/06/03 13:01:42	129P (180分)	講義で紹介されて興味を持ち、読みはじめました。翻訳ものにしては明快な訳文なのですが、調査の過程があまりにも丹念に描写されていたため途中で読むのを挫折してしまいました。
		当時の衛生状態に関する一般常識がどのようなものだったのか、一般庶民の暮らしぶりがどんなものだったのか、端々からうかがい知ることができておもしろかったです。漫画「エマ」の世界と現実は違うんですね。(時代も違うけど)
tormenta	67-237	
2008/05/19 15:50:42	171P (250分)	この本の概要は講義でだいたい知っていましたが...スノーの目のつけどころ(モノの見方?)はわたしたちが研究を行ううえでも役立つような気がしました。
	67-89	他の人がまったく思いつかなかった視点から問題の原因を究明し、それを証明していく過程にはただただ感心させられるばかりでした。
石川です。	1-10、239-266	
2008/04/29 12:01:44	37P (50分)	感染地図を作るエピソードは読んでいませんが、最後のエピローグを読むと話の流れ、都市化の長所や、その短所もわかります。核攻撃、鳥インフルエンザ、生物兵器など。
	247-251	

1859年の潜水艇 - 天才発明家モンテウリオールの数奇な人生

著者名	マシュー・スチュワート	発行年	2005年
出版社名	ソニーマガジズ	ページ数	383ページ
値段	2,300円	ISDN	978-4789726733

バルセロナ沖につかのみ浮いた、うたかたのサブマリン。

この潜水艇で人類に新たな未来を開くのだ！ どんな男が、どんな夢にとりつかれ、どのようにその夢とともに沈んでいったのか。こってり描き込まれた彼の人物像も存在感大だけれど、背景に浮かぶ群像もごつくて、ユニークで、なかなか。

イカリアという国の名前を耳にしたことがおありですか？

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する	
お勧め度		
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ	
読んだページ数と時間	ページ () 分	
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ	
コメント		

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
crystal	7-22	潜水艦に対して、「わが人生そのものだ」と言い切った変わり者の話。いや、しかしこれぞ男のロマンとでもいおうか。
2008/07/16 21:51:47	16P (20分)	

じゃがいも	7-43,131-188	<p>昔の科学者の話は参考にならない, と思っていた. 天才, 変態, 孤高といった古くさい科学者の研究スタイルは, チームで研究, 開発し, 成果を世界に報告して知を積む今の科学, 工学に通用しないと.</p> <p>しかし, 彼モントゥリオールは確かに変態チックだが, 沢山の人を動かし潜水艇を作った. 一時的に敵船の下に潜って爆弾を置いてくる軍用潜水艇をスタンドプレイで開発して沢山の乗組員を沈めて来た同時代の開発者と姿勢が違っていた.</p>
2008/06/09 12:13:03	145P (150分)	<p>海の中を自由に移動出来ること, 海に潜る危険な仕事をする人たちの安全を守ること, そして到達不能だった未知の世界を見ること. 彼の考える「本物の潜水艇」を周囲に語ってみせ, 資金や制作, 運転要員を集め, 巨大プロジェクトを推進した.</p> <p>一方で, 基礎学問や先行事例を研究し, 乗組員を絶対無事に帰すために必要な技術を積み重ねて行く過程はプロジェクトXだ.</p> <p>東工大生は読んだ方がいいです!! 全部読んで, 出来れば持っておきたい本.</p>
	1-47,131-228	<p>&lt;追記&gt;</p> <p>最初の潜水に成功した後, さらなる開発のためお金が必要となる. 費用も莫大なため資金提供を国家に求めようとするが, とたんに難航する. 論文を書き, 海軍やスペイン女王にもかけあうが上手くいかない. 信念を曲げて軍事利用もありだと言い出す.</p> <p>個人の熱意は周囲の人間を巻き込むことはできても, 国家までいくと, やはり難しいのかな, と思ったら, ある味方の出現で簡単に上が動き出す. 社会の縮図ですねえ.</p>
白猫	1-25,158-167,287-339	<p>潜水艦、が気になって手にしてみたが、開発者とその周辺の話が多く、意外と退屈でした。</p>
2008/05/20 12:23:16	88P (120分)	<p>ただ、彼の「ものづくり」に対する思いは共感できる部分があり、</p> <p>「実用的であるか、社会に必要とされているか、そういったことは後から考えればよい。理想的なものを作り上げるんだ。」</p> <p>という志はエンジニアを目指す学生の共感できる部分だと思います。</p>

大冒険時代 - 世界が驚異に満ちていたころの50の傑作探検記

著者名	マーク・ジェンキ ンズ編	発行年	2007年
出版社名	早川書房	ページ数	579ページ
値段	3,600円	ISDN	978-4152088413

貪欲な白人たちの足跡が、砂漠を、ジャングルをひたひたと横断してゆく。「今晚15人の死体と一緒に寝たほうが、明日16人目になるよりましだ」(250ページ)なんていう寒さは、まだまだ序の口。イナゴの大群に急襲されてナウシカ気分(121ページ)。海賊船を急襲してパイレーツ気分(503ページ)。

ランダムにページをめくれば、どこでもアドベンチャー。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ロマンチストの資格	167-177,463-474	世界最大落差の滝、エンジェルフォールが気になっていたのを読んでみた。1949年まで未到達、未測量だったという事実におどろき。ぜひ一度見てみたい。 またアラビアのハドラマウドの都市への探検の話も読んだ。 わくわくとともに、「大冒険」「発見」というのは本当に西洋視点だなと感じた。そこは現地の人にとっては昔から生活や信仰の場として知られていたのだ。
2008/07/22 18:14:46	23P (30分)	

結花	475-611	まだ技術が発達していない頃の冒険。それは常に死と隣り合わせにある分、一つ一つの出来事が心を揺さぶるものになる。そんな人々の心を揺さぶった物語が凝縮した本がこれだ。
2008/07/04 16:04:52	137P (120分)	私が読んだのは、海・空の旅を題材にした最後のパート2つだ。人間が慣れ親しむ陸での生活とは違う世界がそこには広がっている。それゆえ、航海独特の苦勞、様々な国をまたにかける苦勞、そういった私たちの日常生活では考えられない、わくわくドキドキ感が溢れた話を存分に楽しむことができる。
	479-485,498-510. 522-532	
crystal	33 102	何冊か歴史文学を読むうちにアフリカに非常に興味がでてきたので、アフリカを旅した人たちの書いた短編のみを拾い読みしてみた。
2008/06/19 17:56:49	70P (60分)	生と死がとなり合うような緊張感ある環境がリアルに描かれていて、まるで自分も旅をしているような気分になれる。総ページ数はかなりあるが、一つのエピソードは10ページ強ほどなので、ちょっとした時間で十分に楽しめると思う。辺境の地に興味のある方にはオススメできる。

[TOPへ](#)

博士と狂人 - 世界最高の辞書OEDの誕生秘話

著者名	サイモン・ウィン チェスター	発行年	1998年
出版社名	早川書房	ページ数	325ページ
値段	740円	ISDN	978-4150503062

「第二独房棟の学者」。この言葉に反応したあなたは、ほんとうに世にも稀なる人物に面会を許されることになる。

警告：彼にナイフを渡してはいけない。

原題：THE PROFESSOR AND THE MADMAN この「and」は奥が深い。ひとりの人間のなかに博士と狂人のふたりが棲んでいるのだ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ksk	1-302	物語形式、でも淡々と進む感じ。 訳書なので英語っぽい書き方で、一部読みづらい部分も。 内容は好みが出るかな、と思いました。
2008/08/18 23:41:22	302P (360分)	
	7章	
つけめん	43-71	なるほど、辞書の章を読むのが正解だったか、

2008/07/22 15:12:21	29P (40分)	いやぁ失敗失敗。
はるゆき	1-150	予想に反してかなり面白かった。
2008/07/22 12:30:24	150P (120分)	あまり人気が無いみたいだけど、暇な人はぜひ読んでほしい。
	1-150	今回は時間が無くて半分しか読めなかったけど、機会があったら全部読んでみたい。
yew	1-358	
2008/07/14 22:04:58	358P (270分)	おもしろくて、けっきょく全部読んでしまった。
	211-214	辞書編纂って「ものすごおく」大変なんですね。
パトレーゼ	11-319	
2008/06/05 13:51:39	309P (120分)	ササッとつまみ読みして済ましてしまおうと、軽い気持ちで手に取りましたが結局全部読んでしまいました。タイトルが冴えないですが中身は充実。世界最高峰の辞書編纂の物語。物語形式になっているので、乱読にははっきり言ってあまり向かないのが玉にキズ。3章、10章は飛ばしても問題ないですがそれ以外のところは全部読みたい。辞書編纂の裏側、気の遠くなるほどチマチマしていて、それでいて他にどうしようもない大変な仕事が興味深く理解できます。
sufjan	1-150	
2008/05/07 12:39:26	150P (120分)	日ごろお世話になっている辞書。
	117-149	その辞書を作るのはいかに大変な作業か。 ありがとうございます。 作った人に感謝。

[TOPへ](#)

流線形シンドローム - 速度と身体の大衆文化史

著者名	原 克	発行年	2008年
出版社名	紀伊国屋書店	ページ数	348ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4314010351

流線形はカッコイイ！ そんな美意識が1930年代のアメリカで「発明」されてこのかた、みんなが躍起になって流線形化にいそしんだ。メインターゲットは、クルマのボディと女性の体のライン。

文化的記号性がどうの、なんていうコムズカシイ議論はちょっと脇へ置いて、カタログのようにぱらぱらとどうぞ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
読書中	1-52	タイトルで面白そうかなと思って選びましたが、時間と根気の都合から、本題に入る前に断念。冒頭から読み始めるんじゃなく、目次で面白そうな所を拾い読みすれば良かったかなと、ちょっと後悔。
2008/08/18 23:06:11	52P (90分)	
tormenta	148-228、230-286	流線形とナチスをからめているのは面白そうだなーと思って、そのあたりを濫読してみました。読み進めていくと、みなさんがおっしゃっているように、やはりちょっと無理が

2008/08/18 11:07:15	138P (100分)	あるような気がしました。 物理専攻の方など、流線形のすばらしさを知っているとちょっと違った感想を持つのかなーとも思いました。 私は流線形についてまったく無知なので・・・
	なし	
ミソカツ	148-228	表紙を見て、下心から選びました。 なぜだか読んでいて非常に疲れる本でした。 流線形はすごいということ言うために、似たような内容をいくつも並べて書かれていたかもしれません。流線形はすごいという結末が見えていたからかもしれません。 少し力技のように感じました。
2008/08/17 05:24:45	81P (60分)	
	189	
パトロン革命	1-39, 59-116, 148-186, 191-228	流線形の面白さが堪能できました。図を見ていくだけでも楽しめです。文章としては自分が見ていた範囲では繰り返しが多かったのも、少し飽き気味でした。女性用のファンデーションのところは全く知らなかったことなのでかなり面白かったです。車はそこまで好きじゃないけど・・・みたいな人にもこの部分はおススメです。
2008/06/30 22:45:52	174P (120分)	
	97-99	
yew	図を中心にパラパラと	流線型というテクニカルな用語が次第に独自の文化的記号性を獲得していく様にはなかなか興味深いものがあった。 『神話とは「内容」ではなく「形式」の問題である』といった鋭い指摘もあって、グッドである。 ただ全体的にいささか言葉が上滑りしている感があるのが気になる。
2008/06/24 13:00:50	50P (45分)	
	1-4	
みけもどき	1-75	「はじめに」によると「流線形という言葉が時代とともに新しいイメージを身につけていくプロセスを米国・ドイツ・日本で比較する」らしいです。 最初は面白そう！と思ったのですが、結局「流線形」という言葉がひとり歩きし始めるところ（第1章）でギブアップしてしまいました...
2008/06/05 16:52:09	75P (60分)	
	1-4,49-53	
のべ	1-75、148-175、287-359	流線型を通して言葉の記号性などについてを詳しく述べています。典型的な国語の教科書の説明文って言う感じです。 言葉について深く考えた事はなかったので少し勉強になりましたが、言いたい事をいうまでにだたら同じようなことを並べている印象を受けました。
2008/06/02 15:19:32	176P (180分)	
	287-307	
SBM	1-362	おそらくこの本は流線型を題材にしてメディアや思想について述べたのだと思う。 しかし、どちらかといえばその歴史をだたらと辿っている印象が強かった。 何でも流線型の中に当てはめようとしすぎてそれ以外の側面がおざなりになっているように感じる。
2008/05/29 05:41:50	362P (600分)	例えばドイツにおける国民車(=フォルクスワーゲンのビートル)は流線型自動車の象徴のようなものとして取り上げられているが、敗戦後の資源の少ないドイツの事情を踏まえた上での産物だったことには全く触れていない。 必要な情報以外を取り上げないメディアを本全体を通して批判しているが、この本も述べたいこと以外の情報を取り上げていないような気がします。 ただ、当時のメディアの引用や図が多いので流線型の歴史教科書として読む分には面白いかもしれません。
sours	1-348	この本、なんとなく科学史の本のように見えるかもしれないが、実はテキスト分析を用いた文明批評の本。 個人的には、「流線形イメージ」が増幅していくその様子に、発展史観や科学信奉主義や合理主義(そしてそれへのアンチとしてのロマン主義)、さらには優生学やナショナリズムといった大戦前の時代精神が現れているようで、かなりおもしろかった。
2008/05/27 02:14:29	348P (240分)	
	1-4、222-228	ちなみに、英語の「流線形」にあたる「Streamline」には「合理化する」という意味も含まれているそうなのだが、こうした用法が生まれたのは、やはり本書が扱った1930年代、(特に)アメリカでのことなのだろうか？

ODN	12-246ページ	流体力学に関連した研究をしているので個人的に興味がありました。前半の流体力学的な流線型の意味から脱して「流線型 = かわいい」というイメージが付加されて浸透していく過程は面白かったのですが後半はちょっとだるく感じてしまいました。
2008/05/20 10:20:11	234P (150分)	
	101-124ページ	
ivane	12-75,109-116,148-186ページ	写真がたくさん載っているので、パラパラ流し読みする分にはすごく面白い。「下着の写真無駄に出すぎでしょ」とか。ただちゃんと読もうとすると、「記号」とか「神話」とか専門的な使い方の用語(?)がたくさん出てきて、何を言っているのかわからなくなる。空気力学から人間工学へ言葉の意味がすり替わった部分などは興味を持てたが、個人的には、より最近の車や新幹線の流線型の話や、科学的で工学的な話が満載のほうが楽しめた。
2008/05/19 08:35:50	111P (100分)	
	109-116ページ	
sugar	12-22 51-97 148-191	<ul style="list-style-type: none"> ・流線型というキーワードで20世紀前半に生まれた様々なモノを概観していく ・クラシックでレトロな写真多数 ・当時の下着の広告がとてもキュート ・似非科学者の写真がいかにもな感じでグー ・読み進めていくうちに、「うーん...流線型流線型言いすぎでない?」と思った。 なんでもかんでも流線型というキーワードで括ろうとするのはちょっと無理があるのではないだろうか。
2008/05/07 12:52:25	99P (60分)	
	148-191ページ	
knennn	76-147、230-362	21世紀になっても流線型に未来を感じてしまうのはなぜだろうか。図版が多く流線型が科学的な意味を越えて人々のイメージに定着していくさまに1930年代当時の人々の流線型に対する熱狂ぶりが感じられる。
2008/05/07 10:07:40	205P (120分)	
	109-116	

世界最高額の切手「ブルー・モーリシャス」を探せ!

著者名	ヘレン・モーガン	発行年	2007年
出版社名	光文社	ページ数	248ページ
値段	1,890円	ISDN	978-4334962012

1847年、郵便制度のごくごく初期に、アフリカの小さな島で作られたヴィクトリア女王の切手。たった2ペンスの、しかもとうに役目を終えた小紙片が、なにゆえコレクター界の頂点に君臨し、とてつもない経済価値を有するに至ったのか。珍しいから？ うつくしいから？ いや、それだけではないらしい。

人々が切手帳という形で 過去 をコレクションし始めたとき、笑えるほどに奇妙な事態が回り始める。ロマンと欲望の狭間に、かくも不可思議な文化を築き上げたオトコノコ精神に乾杯。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
じゃがいも	8-103	面白い分野だと思うんです，伝説の切手の生まれた歴史的いきさつに加えて，その切手に魅せられ謎を解明しようとした後世の切手愛好家の活躍も描くという，

2008/08/18 19:45:14	96P (60分)	切手収集家は珍しい図柄とか、世界に何枚とか、に興味を持つ人たちという認識だけだったが、もう少し広い深い世界があるようだ。 しかし読んでいて退屈する。誰それが幾らで云々が延々と書かれて、読物としては登場人物が多すぎて把握しきれない。
	初めから飽きるまで	
読書中	1-15,278-303	年表だけ読みました。中身は読んでいないので、切手の詳細についてはわかりませんが、どんどん人の手を渡っていくごとに値段が跳ね上がっていく様子が面白かったです。
2008/08/12 18:06:21	41P (30分)	時間が経過するだけで価値が上がるとか、うらやましいな。私も切手になりたい。
しゅーくりーむ	1-30	うーん、長すぎてダウン
2008/08/07 14:55:00	30P (30分)	タイトル凄く面白そうだったのに・・・ 映画で見たら面白いかも
男爵いも	1-54	内容がおもしろそうだと思って読んだのだが、文章のせいかあまり面白く感じなかった。
2008/08/07 07:28:27	54P (40分)	
SEM	9-54	時間がなくてほとんど読めませんでした。もっと読み進めていけば「ブルー・モーリシャス」の価値がわかったかもしれない。
2008/07/21 16:15:51	46P (30分)	
ロマンチストの資格	1-70ページ、278-313ページ	イギリス領の植民地で1847年に発行された切手が、超プレミアとして1億円で取引される。世界にわずか数十枚。 なにより驚かされたのは、そういうマニア趣味のようなものが、切手においては男女問わず、19世紀半ばから公園での切手交換会や雑誌や切手帳が売り出されるくらいに市民権を得ていたということ。 切手はマニアにより体系化され研究され、発売から二十年たらずで存在する枚数も激減した初期モーリシャス切手は、プレミア化される。そして、ふとしたきっかけで古い手紙から発見されて一億円。 そんなマニア魂お宝ストーリーが楽しめました。
2008/07/15 14:55:26	106P (80分)	
ODN	P8-70,P210-236,P278-P303	後ろの年表だけ読んでる分には楽しめるのですが肝心の本文が冗長すぎるように感じられました。 あと値段の換算をしてなかったりするのでどれくらい高いのかわからないところもあって残念でした。
2008/07/01 17:49:21	116P (90分)	
	P278-P303	
mizuhara	1-70	序盤は、ひたすらに切手の始まりと切手コレクターのはじまりが書かれています。最後まで読むつもりならひょっとして面白くなるのかも。
2008/06/26 20:13:15	70P (65分)	
Nimrod	P.1-70 , P.146-263	今も昔もコレクションの王様として君臨している「切手」。そして多くの人魅了されるからこそインフレが起こる。その究極の例がブルー・モーリシャスだった。 はっきり言って切手なんぞ、コレク

2008/06/17 12:49:28	188P (90分)		ターでない限りは特に価値はない。小学生の集めているポケモンカードと同じようなもの。しかし限られた人にしか注目されないからこそ、思ってもいなかったところから発見されることもある。それが宝石などと違って面白いのかな、と思った。
		第三章	
honyalala	0-26, 44-54, 237-303		1850年代より切手の収集が趣味として、行われていたことは驚いた。どんどん切手の価値が上昇していく様を読んだのははじめてである。一枚一億という切手。考えられないこのストーリーは興味深かったが、読み物としてはそんなに。紙一枚で貴重な材料、技術がないのにもかかわらず、高値がつくのはどうしてだろう。
2008/06/17 12:12:23	104P (45分)		
		237-303	
モンモンモン	1-56		ブルーモーリシャスという切手に関する歴史を淡々と記されています。読んでるうちに興味が湧くかなと思っていただけ、挫折しました。
2008/06/10 20:57:34	56P (60分)		
camel	9-65,258-271		ちょっと興味がわかなくて、ほとんど読まずに挫折しちゃいました。
2008/05/23 21:14:59	70P (60分)		
のべ	1-103、146-184、237-263		この本で登場するポストオフィスを求めるコレクター達の熱意に圧倒されました。切手集めがこれほどまでに熱狂的な趣味だったとは知らなかったのが驚きでした。
2008/05/17 21:28:49	166P (150分)		切手をとりまく思惑や謎などがうまく説明されており、面白いです。
		237-247	
かごしま	9-26ページ、210-271ページ		この本では、「ポストオフィス」という、たかだか数百円の切手が、無限の価値を獲得するまでの軌跡を詳細に描いたもののようです。
			「ようす。」と書いたのは、私自身、全てを読んだわけではないからです。
2008/05/14 19:08:57	90P (120分)		先生のおっしゃっていた「つまみ読み」を試みようとしたのですが、この本は全体を通した流れがある程度重要な本のように、「ちょっと」読むのには適していないかもしれません。
		267-271ページ	ただ、ちょっと読んでみただけでも、この本が、入念な調査・考察の上で書かれていることは伝わってきました。通して読んだら、かなりおもしろそうです。
パトレーゼ	9-15,82-110		切手に対する情熱がよく伝わってきました。図柄の面白さなど二の次、三の次という切手収集の世界の特殊性というか、価値の見出し方に着目して読み進めるといいと思います。ただ、外国の方の名前というのはどうしても覚えにくい。似たようなエピソードが並んでいると尚更で、その点が引っ掛かり、すらすらとは読めませんでした。
2008/05/13 16:54:47	36P (30分)		

yew	1-54,104-145, 210-236	切手集めは男の趣味（あるいは男の無駄な情熱）の象徴のようなものだと思っていたけれど、この業界では何人も女性が極めて重要な役割を果たしていたようだ。ちょっと意外である。
2008/05/07 10:18:28	123P (150分)	
	9-15	
SOUTHERN (° °)!	1-54,127-257	切手をめぐる人間模様、生き様、人生、出会いが描かれていておもしろかったです。章の始まりにある切手マニア的なコメントの気持ちがぼくにはよくわかります。（僕もポケモンシール列伝やポケモンカード、ゲームのポケモンにはまりまくった人間なので）数量化されたさもない一般的価値は、特定の人々に無限大の価値をつけられるこんなロマンティックな話はありませんよ（笑）
2008/05/01 11:28:46	184P (120分)	
	127-257ページ + 章の初めにあるコメント + 用語集	
メルハバ	1-15、44-70、127-271	自分も小さい頃切手集をしていたということもあって、非常に興味深い一冊でした。 1847年、たった2ペンスで発行された切手は、興味の無い人にとっては2ペンスのまま。しかし郵趣家達にとっては1億円出しても欲しい垂涎の一品！一国の王達をも巻き込む切手の行方やいかに!?本文にもあったけどダテ食う虫も好き好きとは正にこのこと。少し脱線するけど、昔あこがれていた見返り美人の5円切手、状態のいいものでも1万円で購入らしい。買おうかなあ...
2008/04/24 16:58:55	187P (120分)	
	9-15	

[TOPへ](#)

私はフェルメール - 20世紀最大の贋作事件

著者名	フランク・ウイン	発行年	2007年
出版社名	ランダムハウス講談社	ページ数	281ページ
値段	1,800円	ISDN	978-4270002346

17世紀の無名画家の絵を安く買ってくる 石蝕と水と軽石でていねいに元絵の絵の具を融かして除去 そのキャンバスの上に17世紀当時と同じ絵の具で新たに描く 特製の窯に入れて焼き、表面に亀裂を発生させる。

ほぼ、こんな工程で、ニセモノの名画ができあがってゆく。それに託した制作者の暗い情念。そして、はからずもナチスがからむことで、「これはニセモノなのだ」と制作者自ら証明してみせなければならなくなった稀有な巡り合わせ。

偉ぶった美術評論家を巧みに罠に誘い込んでゆくプロセスが痛快で、読み進むうちに贋作者メーヘレンの野望にどんどん肩入れしてしまう。ちょうど怪盗ルパンを応援したくなるように。

原題：I was Vermeer

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	

パトレーゼ	8-310	この本が13冊目になりますが、その中でダントツに一番面白いと思いました。気候変動の本の所でも書いたのですが、史実に基づくテキストは物語性と客観的事実のバランスが本の出来不出来を分けると思います。それでこの本はやや物語性重視。それが成功しています。著者と訳者の両方の力量がすばらしいのでしょうか、文章もすらすらと読み進めることができます。
2008/08/14 14:28:30	303P (120分)	主人公ハン・ファン・メーヘレンの悪漢ぶりが最高です。
		個人的にはもう少し が伸びていてもおかしくないと思うのですが、それは単に私がフェルメール大好きでひいきしているからなののでしょうか。贋作巡礼とかしてみたいなあ。
ksk	1-28	
2008/08/11 15:02:08	28P (30分)	冒頭しか読めず。もったいない。
男爵いも	1-99	
2008/08/07 10:30:25	99P (100分)	小説みたいな感じで読むことができました。本物と見分けのつかないほどの出来のいい贋作を贋作を作れることや、それを作るには大変な労力があることを知り、驚いた。
sugar	1-99	
2008/08/06 01:35:44	99P (100分)	贋作をつくるために絵の具の調合を学ぶシーンがおもしろかった。しかし、贋作者の人柄がどうも好きになれず読み進められなかった。
まるきん	1-53	
2008/08/05 12:30:30	53P (60分)	うまい。さすがにうまいでもそれ以上にこの人の執念って何なんだろう。人間やる気になれば、いろいろ出来るってことを改めて感じた
	最初のカラー	
みけもどき	1-326	
2008/07/30 09:20:39	326P (330分)	メーヘレンの心情の描写、特に贋作者になろうとしている場面の描写に引き込まれました。(心理描写はどこまでホントのことか分かりませんが...)
	カラーページ	メーヘレンの書いたフェルメールに対する評価が贋作と判明する前と後ではがらりと変わってしまって、結局は作品の評価もエライ人に右倣えなのだと思います。芸術ってよく分からないです...
たっきー	1-28	
2008/07/22 10:36:53	28P (60分)	カラーページと最初のちょっとしか読んでませんが、一気に最後まで行けそうな雰囲気を感じました。贋作についての知識は全くなく芸術にも特に興味がなかったのも、絵だけを見てもうまいなあ、としか思いませんでした。もちろんプロの方たちが騙されていたわけですから、自分に見破れるわけがありませんが・・・一番驚いたことは、贋作を作るのに本物を作る以上に大変な労力が費やされるということでした。
	カラーページ	
シマウマ	全部	
2008/07/14 18:11:14	326P (300分)	思った以上に淡々と語られていて、その内容とのギャップがよかったです。
	最初のカラーページ	
SOUTHERN (° °)!	1-73ページ	
2008/07/11 11:34:38	73P (50分)	全く知識なしで立ち読み感覚で最初だけ読みました。(若い時の話の部分)
	1-73	小説やドラマみたいな感覚で読みすすめやすいのでは？
ロマンチストの資格	1-326ページ	
2008/06/17 01:17:20	326P (300分)	贋作者ファン・メーレヘンについては簡単に知っていたが、本作を読んで、そのあまりにもドラマティックな展開にまるで小説を読んでいるような気分になった。
		画家としての才能と名誉欲、時代への挫折から贋作へと光を見出していくハンの生き様に、芸術というものの難しさ、不思議さ、恐ろしさを見た。そして、結局は権威の評価によって真贋が分かれ価値が決まってしまう作品の悲しさを感じた。
		文章は、まるで見てきたかのようにリアルに描かれるの

	58-ページ	で小説のように読める。
のべ	1-48、102-146	贋作者は、ただ絵を写すだけでなく鑑定の目をくぐり抜ける為に化学を勉強したり様々な顔料を試したりと、かなりの努力を要する物なのだと思います。そこまでして完璧な贋作を作ろうとするハンの情熱はすごいものがあります。
2008/06/16 15:15:27	92P (100分)	
	102-130	ただ、少し文章がだらだらした感じがあり、途中で飽きてしまいました。
goran	P1-P326	贋作もまた芸術であり、全ての芸術家が贋作作りを目指すわけではなく、贋作を作りあげる芸術家にスポットを当てて書いている。
2008/06/03 19:32:21	326P (240分)	もし、メーヘレンがこの時代ではなく、違う時代に生まれていたら。。。と思わされた。
	P1-P28	海外ノンフィクションの場合よくあることなのだが、主人公の生い立ち・人間関係を語る上で次々と登場人物・作品名が増え、かつどれがストーリーにおいて重要なかがわかりにくく、内容の理解が煩雑になっていくが、主人公のファン・ハン・メーヘレンの心情だけに注目して読むことを勧める。
Nimrod	P.1-28 , P.102-326	主軸になるストーリーに加えて、細かなエピソードがちりばめられていたので、いろいろな情報を目にしながらか読み進めていくことができました。フェルメールが好んで多用した「青」の絵の具のお値段や、贋作者メーヘレンの女の子遊びのはっちゃけぶりetc...
2008/05/12 16:45:34	253P (180分)	けれどやはり最も目を引くのは、彼の贋作がどのように評価され、どのように世間で扱われ、そして贋作と判明したときの世間の手のひらの返しなど、彼の作品をめぐる人々の物語です。彼の最大の贋作「エマオの食事」を鑑定士が見ているときの描写はもう端からみればほとんどコメディ。喜劇の神様チャップリンは「ドラマは当事者にとっては悲劇、部外者にとっては喜劇」と言ったそうですが、その具体例を見たような気がしました。
	プロローグと、カラーページの図版	しかし本当に考えさせるのは、結局のところ「芸術の価値ってなんだ??」という疑問。別の方のコメントにも書いてありましたが、作者名が変わると作品の価値も変わるというのはどこかおかしな話です。結局のところ誰が描こうが絵画なんてものは紙と絵の具のカタマリなわけで、その価値が行ったり来たりするのはどうもさもしいような感じがしました。つまりはベープ・ルースのホームランボールのようなものと捉えればよいのでしょうか。ボールそのものよりも、付加価値の方が大事みたいな。そう考えると、「絵」そのものの価値を見出せている人は世界にごく稀少か、もしくはある程度いたとしても、見る目のない成金に周りの鑑定士も振り回されているということなのでしょうか。
メルハバ	8-28、102-292	同じことを書いている人がいるけれど、はじめは少しお堅い感じの文章で読みにくいと思っていたものの、読んでいくにつれて面白くなっていきました。特に『再生を企てる男』の章の贋作を作っていく過程は非常に興味深かったです。贋作作りはそのほとんどが化学実験みたいなものなんだなあ、と。出来のいい贋作は今もなお美術館の壁にかけられていて、贋作と分かったと訴訟だなんだと騒ぐのは、結局人はその『絵』ではなく書いた人の『名前』にお金を払っているのかと考えると、なんか変な感じでした。
2008/04/30 12:45:04	212P (120分)	巻末にフェルメール全作品一覧 (&現在の真贋) が載っていて、家のフェルメールの画集と見比べていたら、好きな絵の一枚が今は贋作扱いになっていてショックでした。まあ素人なんてそんなもんか。
	8-28	

パトロン革命	19-28 , 225-288	読み始めはよく分からず、あまり楽しめませんでした。後ろに進むに連れて面白くなりました。もしかしたら自分が今まで見てきた美術品も・・・と思うとドキドキしました。贋作はともすれば負のイメージで覆ってしまいがちなものですが、これを読んだら「美術品の一つのジャンル」だとする見方もできるようになりました。衝撃的な結末を期待しすぎて最後は自分にとって少し物足りないものとなりましたが、事実に基づいているという点では充実した内容だったと思います。
2008/04/25 17:53:04	74P (90分)	
	285-288	

[TOP](#)^

ロスチャイルド家と最高のワイン 名門金融一族の権力、富、歴史

著者名	ヨアヒム・クルツ	発行年	2007年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	318ページ
値段	1,800円	ISDN	978-4532352875

華麗なるユダヤの大富豪一族の軌跡として読んでもよいけれど、232ページから登場する後半の主人公フィリップ・ド・ロスチャイルドのジェット・コースター人生にほれほれ。
 どん底も頂点も味わい尽くした男。これぞ20世紀最高の貴族と言うべきか。
 ブルー・モーリシャス(切手)、フェルメール(絵画)、そして本書のワインとつなげて読むと、モノの値段って何? という思いにも誘われる。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例: 1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例: 55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
Www	17-43	ユダヤがいかにして金融に強くなっていったかが書かれていた。まあまあ面白かった。
2008/07/22 21:03:50	26P (15分)	
	17-43	ワイン飲みたい。

ロマンチストの資格	1-84ページ	前半はロスチャイルド家の繁栄までの物語で、当時差別階級であったユダヤ系のロスチャイルド家が、始祖マイヤーのもと強力な家族経営と上流階級への取り込みでヨーロッパに冠する経済帝国を作り上げた話。後半は、ロスチャイルドの没落とワインのシャトーが残る話のようだが、未読。 少し固いが、分かりやすく興味深い内容。
2008/07/15 15:07:03	84P (100分)	
camel	157-177	ほとんど読んでないからあまり書けませんが、おいしいワインについての描写に期待して読んだらあんまりそうゆうのはなさそうだった。ワイナリーとか行ってみたい。
2008/07/14 22:35:27	19P (60分)	
アイを叫んだケモノ	139-154,166-177	「忍耐と情熱」を頭の隅に置きながら読むといいかもしれません。
2008/05/27 16:32:22	28P (20分)	
	153-154	

[TOPへ](#)

ヒトラー最後の12日間

著者名	ヨアヒム・フェスト	発行年	2005年
出版社名	岩波書店	ページ数	242ページ
値段	1,900円	ISDN	978-4000019347

史実を掘り起こした長めの章とそれを考察した短い章を交互に配置して、とある巨大な世界の崩壊の原因へと降りてゆく。ヒトラー = 大悪人と単純に塗り潰して満足する歴史観が、60年を経て、ようやく超えられようとしている。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
goran	213-244	昔に映画を見たことがあったので筆者あとがきだけ。どんな人物でも書き方しだいなんだなと感じました。
2008/08/18 23:59:55	32P (30分)	
	なし	
アイを叫んだケモノ	2-244	一人の人物に関して、様々な証言をもとに語られている点は興味深かった。 印象的だったのは、ヒトラーが、もっと破壊しておかなかったことを悔やんでいたという証言。ドイツ人の英雄的
2008/08/17 19:26:57	242P (320分)	

	150-164	滅亡に向かったその思考からは狂気よりも、自らを神話化しようとする強い意志を感じた。
わくわくさん	1-150	読んでいて、敗戦が濃厚となってきた中のヒトラーの異常な行動、そしてヒトラーだけではなく、戦争中の人々の精神状態が極限状態であることがよく伝わってきた。
2008/08/17 04:17:29	150P (90分)	ただ世界史の知識に乏しいため、読み進めるのが若干、辛い部分もあった。
さわら	1-5	授業前に借りて読んでたら、その日の授業で映画が流れました。
2008/08/13 18:49:43	5P (10分)	映画を見た後に読むのは疲れるのであきらめました。映画は面白かったです。切らずに全部見たかったです。
SBM	137-164	映画を見ていたので内容は入ってきやすかったです。印象的なフレーズとしては『ヒトラーは敵を作ることによって自分の存在を正当化した』というもの。
2008/08/08 14:13:22	28P (45分)	別に独裁者に限らずこういう発想って誰にでもあるもんだな...と考えさせられました。ただ、ヒトラーは敵の作り方が極端かつ大規模だったためこんなに悪者扱いされてるだけで。
男爵いも	196-205	最後のほうをちょっと読んでみたけど、内容がよく理解できなかった。
2008/08/05 05:23:40	9P (10分)	僕も映画を観てみます。
すみただ	2-205	(ナチスやヒトラーと様々な事柄について、自分の無知さのため、本書の内容についての理解はものすごく薄っぺらになっていると思うが...)本書はベルリンの地下に潜伏した末期のヒトラーを人間的に描写している。でも敗戦末期という状態での部分的な描写に過ぎないとも感じてしまうのは偏見なのだろうか。私の中のヒトラーの印象は、やはりユダヤ人大量虐殺のホロコースト先導者としてのヒトラーである。歴史は、いくらそれが事実であっても、その記録者の考えというフィルターがある限り、その数だけ捉え方が存在してしまうと改めて感じた。
2008/07/29 00:05:32	204P (200分)	
まるきん	1-30	焦土化作戦がなぜ受け入れられたのか
2008/07/25 03:58:55	29P (20分)	国家とは何か
	12	考えさせられるものがあった。暇なときにもっと読みたいと思う。
結花	2-243	ヒトラーはどんな人？
		この本を読んでその疑問はさらに強まった。
2008/07/15 15:36:54	242P (300分)	死ぬ直前の彼の在り方は、狂気と心の脆さをこの上なく表している。しかし、どうして彼は「極悪非道」というイメージが定着するほどの支配者となったのか。彼の幼少時代までもが気になる、ヒトラーへの興味を掻き立てる本である。
	134-147	
pato	213-244	訳者あとがきのみを読ませて頂いた。
2008/07/14 21:16:21	32P (30分)	どういうモチベーションでこの本が書かれたのか興味深かった。
	213-244	日本に通じるところが・・・
モンモンモン	まえがきまで	映画が面白そうだったので、読んでみます。まだ読み始めです。
2008/07/12 21:13:36	22P (20分)	
		以外とお勧め度は低いんですね。
sufjan	1-5	
2008/07/08 12:34:05	5P (10分)	うーん...自分には合わない
	1-5	映画観ます
crystal	149-205	ヒトラーの破壊的な思考を記した一説に、「たとえば猿は、よそ者が入ってくれば共同の敵として相手が死ぬまで攻撃する。猿にあてはまることなら、人間にはもっとあてはまるはずだ」とあった。

2008/07/06 19:53:24	57P (60分)	彼には歴代の支配者が唱えた正義らしいものがなかったらしい。 この本には写真も多くつかわれており、当時の人の表情をみてとれるので、その点も楽しめるポイントだと思う。
じゃがいも	xiv-xxvi,2-34,51-80	面白い．面白いけど，読んでいて辛い．そして痛々しい．ヒトラー，本書で描かれる戦争末期の時点では，もはや今で言う「精神錯乱状態」． 誰か止めてあげられなかったか． ヒトラー始めナチスは確かに酷いことを沢山してきたので最後の暴走を止めた所で罪は変わらないだろうけれども，少なくとも無駄死には幾分減らせたはずだ． 要塞に籠るヒトラーは次第に弱って行き，しまいには有りもしない部隊や実行不可能な作戦をどんどん出して，戦場はますます混乱に陥る．もうカオス， 周りの反応も様々．ヒトラーの末期の無茶苦茶を知りながら従った人，無視した人．．．3章まで読んだ時点であり地獄のような結末が用意に想像出来た．近現代の「裸の王様」は強大な破壊力を持ちうるから厄介だ．精神状態がいい時に続きを読もう．
2008/07/01 15:42:48	73P (50分)	
のべ	1-148	敗戦間際の人々の様子が生々しく描かれています。どんな気持ちで負けが見えている戦争に臨んでいるか、ヒトラーの異常な状態とその周りの人たちの様子で知る事ができたのが面白かったです。敗戦間際では誰一人として正常な心理になれない、ということがわかった気がします。
2008/06/28 21:50:28	148P (120分)	
	32-34	
tormenta	1-14ページ	授業で映画を見て面白かったので、全部読みたい！と思って最初から読み始めましたが、みなさん指摘している通り、文体や出てくる語句や始まりの内容になかなかなじみなくて、早々と読むのを断念・・・
2008/06/20 17:36:14	14P (20分)	
	なし・・・	
hiro	1-244	授業でも取り扱っていましたが、この本を基にした映画を以前に見たことがあったので、とっつきやすいかなと思ってこの本を選んでみました。 ただ、実際に読んでみると他の方もコメントしているように、堅苦しい表現が多かったり、カタカナの人物が多数登場するために本としては非常に読みにくいです。ただ、内容自体は面白いと思うので、本を読むより映画を見たほうがいいのかと思います。
2008/06/10 15:37:10	244P (240分)	
	120-148	
sugar	1-16	のっけから延々と続く敗戦報告にやられて読み進める気力が失せてしまいました... 16ページで挫折。 たっきーさんのコメントと同じく、ナチスにある程度詳しい人ならば楽しめるのではと思います。
2008/06/10 12:52:50	16P (30分)	第二次世界大戦、ナチス、昭和の日本を読むなら手塚治虫「アドルフに告ぐ」がとっつきやすいです。 http://www.amazon.co.jp/%E3%82%A2%E3%83%89%E3%83%AB%E3%83%95%E3%81%AB%E5%91%8A%E3%81%90-%E6%89%8B%E5%A1%9A%E6%B2%BB%E8%99%AB%E6%BC%AB%E7%94%BB%E5%85%A8%E9%9B%86-372-%E6%89%8B%E5%A1%9A-%E6%B2%BB%E8%99%AB/dp/4061759728
SOUTHERN (° °)!	1-205,213-234	歴史学の授業でやった範囲だったので、読み切れませんでした。さっと読みたい人は第一章～第四章までは写真や図をみて飛ばして行って、第五章から読んでいくといいかもしれません。ナチスドイツが絶対的な支配を目指してゆく中で、焦土を繰り返していくわけですが、破壊への意志ベクトルというものが外部(世界)からの圧力によって方向を自分の国にまでむけるようになってしまったのでしょうか。世界を敵にまわしていくなかで歴史上のヒーロー的大スター

2008/06/05 11:19:15	227P (180分)	ヒトラーという男の‘人間性’が変貌していきます。虚無感に襲われる「ケーキをむさぼる廃人」が、完全焦土のメカニズムから皮肉的にも自国焦土につながるなかで、結婚後の銃自殺してゆく???そんな人間の歴史ドキュメンタリーだとおもいます。
	100-205	
ジョコビッチ	第一章、三章、五章、七章	全体的に、出来事を時系列に並べているだけの部分が多かった。
2008/06/03 12:36:51	158P (120分)	帯の部分にあったような、ヒトラーが人間的に描かれているようには思えなかった。
		また、登場人物が多すぎて、内容の理解がしづらかった。
yew	1-80, 100-148, 165-194	帯文にもある文章、
		《万一われわれが勝利できないようなことがあれば、「その時は、われわれ自身が滅亡するだけでなく、世界の半分の滅亡の道連れにするだろう」。》
2008/05/27 12:51:42	159P (150分)	が深く印象に残った。
	まえがき	
Nimrod	第一章、三章、五章、七章	敗戦直前のヒトラーの異常な精神状態。これが文章を通してひしひしと伝わってくる。自決直前に愛犬を撃ち殺したり、結婚式を挙げたなどのエピソードがよりヒトラーを「狂人」と位置づけるのに一役買っていると思う。
2008/05/13 13:07:47	158P (90分)	ただこの本も、非常に極端な見方しかしていないのも事実。「こんな視点もある」という風に割り切って読んだほうが良いかと思われます。
	第五章「死の祝宴」	
さっく	1-194	ヒトラーの異常なまでの戦争への執念や、それに呼応した国民感情が描かれていて、あまり知らなかったドイツの戦争遂行の原動力を知った。
2008/05/07 12:41:43	194P (300分)	また、敗戦直前のベルリン陥落時の市街戦の悲惨さが印象に残っている。
	1-34, 99-148	ただし、原著からしてそうなのか、和訳でそうなのかはわからないが、まわりくどい物言い、言い回しのしつこさのせいで読むのがつらかった。内容に興味があっただけに残念。
たっきー	1-97ページ	ナチスについて何も知らなかったので、戦争に負けたヒトラーが、最後の方にはすごい生活をしていたことを知り、驚いた。
2008/05/07 12:07:46	97P (180分)	ただ、いろんな登場人物が当たり前のように出てきて、毎回人物紹介をみにいった。
	18-25	そのせいか内容把握があまりできずに、いたずらに時間だけを消費した。
		ナチスの知識が全くない人にはつらい気がする。いずれにしる内容を把握するにはもう少し時間が必要だと思った。

シャドウ・ダイバー

著者名	ロバート・カーソン	発行年	2005年
出版社名	早川書房	ページ数	495ページ
値段	2,200円	ISDN	978-4152086488

潜る。不安定な装具に身を預け、おのれの体力と判断力と強運だけを信じて、ひたすら潜る。そうやって深海のUボートの謎を解き明かしてみせた男たち。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
つばき	1-495	海猿を見た後に、読みました！！ 結構はまった！！
2008/08/18 21:57:33	495P (180分)	
ぜんまい	1-84、121-156	冒険ですね～。うん、冒険という言葉がこれほど似合う職業も珍しいのでは。都合上、ちょこっとだけしか読んでませんが、目次があいまいでクサイことになってます。「届かなかったシグナル」とか。 それにしても、ジョン・チャタトンにはハンサムですね。
2008/08/18 00:35:48	120P (120分)	

男爵いも	343-364	読みやすいのだが、話がつながっているのでつまみ食いをするにはむいてない。 時間があるときにゆっくりと読みたいと思う
2008/08/07 11:04:35	22P (20分)	
まるきん	1-532	失われた歴史に魅かれ、潜る男たち 命を危険にさらしながら彼らが持ち帰ったもの それらが照らすエピローグ
2008/07/25 04:08:02	532P (532分) 150-183	
mizuhara	1-58 299-364	歴史のプロでもないレックダイバーが、歴史と言う重力にひかれ、ダイビングをし、また資料を漁ることによって偽られた歴史を解き明かしていくというお話(9,10章は)です。
2008/06/17 13:09:20	124P (80分) 343-364	
パトロン革命	32-484	軽い気持ちで読んでいたらついついあとが気になり、ほとんど読みきってしまいました。ここでのダイビングは通常のものとは違う「レック・ダイビング」という深さ70mレベルの真っ暗な深海を舞台とする世界で最も危険なスポーツ、と言われているそうです。この作品ではこのレックダイビングを単なるスポーツにとどめず、人生そのものとして捉え自らの命を顧みない、勇敢なダイバー達の記録を本人達の話から残したものです。極限状態におかれた人間はどんな行動に出るのか、つねに極限状態と隣り合わせの人間はどんなことを考えるのか、など、ダイビングという狭い枠にとらわれない内容で、自分自身にとって為になる作品でした。主人公が命を賭けた最後のダイビングも面白かったのですが、個人的には主人公が経験した戦争についての生々しい話のほうが印象的でした。なつやすみの課題図書にはおすすめです。
2008/06/11 15:37:27	453P (300分)	
	468-469	

[TOPへ](#)

眠れない一族 - 食人の痕跡と殺人タンパクの謎

著者名	ダニエルT.マックス	発行年	2007年
出版社名	紀伊国屋書店	ページ数	322ページ
値段	2,400円	ISDN	978-4314010344

致死性家族性不眠症。時限スイッチが入って体内の殺人タンパクが暴れ始めると眠れなくなって悲惨な死に至る。ロザリオの祈りにすぎるしかなかったイタリアの名家の壮絶な宿命をひもときつつ、狂牛病へと説き及ぶ。たくさんの人がこの病に関心を持ってくれないと、巨費を投じての新薬開発が進まない。ひそやかな弔いを捨てて、PR戦術に転じたイタリアの一族の行動が何ともせつない。病気は、今や見世物なのだ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
アイを叫んだケモノ	13-44	現代においても病原体などに関してその存在を認めるまでに時間がかかる。政府の対応からもそれはうかがえる。BSE問題で耳に入れていたプリオンについて書かれていたので手に取ってみた。
2008/08/18 13:12:34	32P (30分)	
	13-30	

ロマンチストの資格	3-35,214-277,325-334	眠れなくなり死んでいく。体が動かなくなり死んでいく。 タンパク質の異常によるプリオン系の病気は悲惨だが、それだけを語るのではなく、科学的な発見や研究のされ方、政府の対応や業者の対応など問題と発生原因についてよく調べまとめられていた。
2008/08/18 12:20:47	107P (200分)	また筆者自身が同様の病気を持っていて文章や調査にも力が入っているように感じた。医学研究の在り方についても考えさせられた。
sours	1 - 78, 90-151, 170-189, 214-251, 265-277, 310-338	BSEやCJD、スクレイピーと呼ばれる数々の難病の原因、プリオン発見の軌跡を辿った本。
2008/08/15 05:24:39	240P (300分)	未知の病原体プリオンの存在が明らかになっていく様子は非常にスリリングだし、本の帯にある食人の話もこの本の魅力の一つだと思うが、個人的には、プリオン病(?)という奇病を患った者たちの現実を知れるあたりが、この本の最大の魅力だと思う。
	325-338ページ	「あとがき 筆者に関して一言」にある、筆者自身が医師と学生の集団に診察(?)されるシーンなんかは、滅茶苦茶ドライな文体で書かれているのに、奇病を患う者の悲愴感みたいなものが感じられ、とても印象的。
まるきん	1-44	昨日は疲れて9時間ぐらい寝てました。
2008/08/05 12:44:03	40P (30分)	少しづつ狂っていく中で、真っ暗な中を過ごすのは地獄だと思います。
	1-35	絶対いや
つけめん	13-35	時間なくて触りだけ。呪われた一族の話。
2008/07/11 16:27:16	23P (20分)	眠れない病気の話だが、その苦悩は想像を絶する。
	序章	今夜も安息の時間をありがとう。
sufjan	1-35	眠れないのはいやだ。
2008/07/01 12:36:34	35P (60分)	眠りたい。
	1-35	うとうとしてる時が一番幸せだ。 眠れなくなる恐怖を持ちつつ生きていくのはつらいだろうな
パトロン革命	13-35, 170-179, 248-271	自分の研究でコラーゲンを扱っているの で、タンパク質違いですが読んでみました。史実的な内容が大半をしめるので面白みに欠ける作品ではありますが、一読する価値有りです。プリオン・家族性不眠症・カニバリズム・・・聞きなれない単語が多かったですが、タンパク質を扱う立場としては非常に興味深かったです。
2008/06/25 15:54:05	67P (80分)	
ジョコビッチ	13-324	この本を読み終わった直後は、ハンバーガーを食べる気がなくなった。
2008/06/10 12:48:04	312P (300分)	先入観を持たず、科学的根拠に基づいて研究を進めていくことの大切さを実感した。
たっきー	214-308	本を手にした理由は、タイトルと「食人」というワードが気になっただけでした。
2008/06/03 12:52:22	95P (120分)	実際の内容は想像していたものとまったく違うものでした。

	214-231	世の中には、このような遺伝性の怖い病気もあるのだと知り驚きました。
P-ball	13-35 , 96-151 , 170-189 , 214-308	C J D , B S E , スクレーピーなどプリオン病について詳しく触れる機会がなかったため大変ためになりました。
2008/05/27 15:38:32	194P (220分)	この本ではプリオン病そのものはもちろんですが、研究者に纏わる話も興味をひきました。
	13-16	
Nimrod	序章、第1,10,11,12,13,14章	BSEをはじめとするプリオンにより引き起こされる病の数々。 その描写は非常にリアリスティックで悪寒が走る。
		しかし、もっとも興味をそそられたのは、殺人タンパクの科学的な分析よりもそれにまつわる人間ドラマ、そしてその存在を否定し何の措置もとろうとしなかったサッチャーをはじめとする時の権力者たちの話だった。特にBSEに関する言及は記憶に新しいだけにより興味を持って読むことができるのではないかと。
2008/05/23 19:20:25	149P (90分)	
	第10章「地獄の黙牛録」	最後に難癖をつけるとするなら、サブタイトルになっている「食人の痕跡」。この部分をもっとも期待して読んでいたのに、蓋を開けてみればプリオンとカニバリズムの間に、ずいぶんと理論に飛躍があり、どうもこじつけのような印象を受けてしまった。
特になし	13-59	最後に難癖をつけるとするなら、サブタイトルになっている「食人の痕跡」。この部分をもっとも期待して読んでいたのに、蓋を開けてみればプリオンとカニバリズムの間に、ずいぶんと理論に飛躍があり、どうもこじつけのような印象を受けてしまった。
2008/05/15 22:10:53	47P (60分)	プリオンについての知識が深まります。BSEもプリオンが関係しています。内容としては科学書的な感じを受けました。
	27-35	
yew	13-55, 96-170	興味をひかれた一文を引用する。
		『感染症は、攻撃者と防御者のあいだにおける進化論的な闘いを具現化するはずであるという前提があったため、研究者は病気に関して重大な役割を演じる要素がほかにあるとは、なかなか考えつかなかった。』
2008/05/07 10:29:21	118P (120分)	
	13-35	人はものごとに「意味」を求める。「無意味」は人にとって耐え難いものなのだ。

戦争広告代理店

著者名	高木徹	発行年	2002年
出版社名	講談社	ページ数	405ページ
値段	619円	ISDN	978-4062750961

世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
つばき	1-405	かなり重い内容でしたが、比較的すらすらと読めました
2008/08/18 21:48:58	405P (120分)	
ポンプUno	1-180	いち企業のPR工作によって世論の流れが形作られていく様はとてもしりリングでかつ恐ろしかった。こういった扇動に左右されずにいるのはとても難しいことだとは思いますが、多くの情報を入手し、冷静な判断を下していく努力を絶やすわけにはいかないと感じた。
2008/08/17 00:14:03	180P (120分)	

SBM	14-50	戦争にも広告代理店が裏で糸を引いていたなんて全く知らなかった。
2008/08/08 14:34:53	37P (50分)	そしてやっぱりそれを商売にするのはアメリカ。
		触りしか読んでいないのでわからないところも多いが一体どういう心理でそんな仕事をするのか。
わくわくさん	1-405	読後、マスコミ媒体の影響力の巨大さ、群集心理の怖さというものを強く感じた。
2008/07/31 17:44:24	405P (120分)	広告代理店のエージェントの弁として「綿密な調査と分析に基づいてPR活動を行っているので、自分たちの活動には問題無い」との趣旨のものがあつたが、自分たちの情報操作によってどのような事態が発生するのかについての配慮よりも、利益を重視していることに変わりはないと感じた。
		確かに企業である以上、利益を追求するのは当然であるが、マスコミのような影響力の大きな業種の企業にはより高い倫理観が求められると思った。
みけもどき	14-384	読んでいると続きが気になってしまい、気づいたら全部読んでしまいました。
2008/07/29 23:31:03	371P (400分)	途中までは、如何にボスニア・ヘルツェゴビナをアピールするかというゲームのように感じていましたが、次第にPRが恐ろしいものに思えてきました。
	12章	もしかしたら、自分の抱えている考えや意見は、マスコミにそう思い込まされているものなのかもしれない...と思いました。
yossie	14-17、110-235、386-405	「民族浄化」というバズワードを軸に読み進めていったので、戦争を裏で操作する情報と、異なる背景を持つ国ごとの言葉の解釈、言葉の持つ力などをうかがい知ることができたように思います。
2008/07/23 01:03:35	147P (180分)	また、世界中で起こっている扮装について、自分は知識と理解が足りないということにも気付かされ、別の機会にボスニア戦争について理解を深めていきたいと思いました。
	110-235	
pocky	1	
2008/07/22 17:07:39	1P (0分)	表紙とタイトルを見て引かれて読もうと思いましたが、内容が重そうで読むのに疲れそうであきらめました。
	1	
マーシャル	1-405	昔、ボスニア紛争のニュースを見て、単純にセルビア人が悪いと思っていたが、そんな単純に捉えられる問題ではなかったことに気付かされた。アピール次第で世論がコントロールされてしまう恐ろしさを知った。
2008/07/22 16:22:59	405P (300分)	
男爵いも	1-405	ボスニア紛争時の裏での出来事が詳しく書かれています。
2008/07/14 19:30:05	405P (350分)	PR会社が戦争の裏で、人々に興味を持ってもらうためにしているさまざまな交渉や戦略に好奇心をそそられ、最後まで一気に読みました。
	すべて	とても面白い本です。お勧めです。
パトロン革命	14-384	展開が目まぐるしく、映画を見ているような感覚でした。筆者の見方が偏っていた(ある程度は仕方ないのかもしれないが)のが少し気になりましたが、歴史のまさに裏舞台を見たという満足感が得られました。と同時に、情報にいかにして威力を持たせるか、そしてその重要性も理解できました。一歩引いた感じで世界を見ることができそうな一冊です。
2008/07/09 14:52:46	371P (300分)	
	164-178	
は る ゆ き	1-405	ボスニア紛争時の影の立役者であるPR企業敏腕社員についてのドキュメンタリー。
2008/07/08 09:53:52	405P (360分)	セルビアとボスニアのどちらが良い悪いという話ではなく、あくまで中立的な視点から、その当時裏でどのようなことが行われていたかを生き生きと描く。一方で、メディアの情報を全て信じることの危険さについて、暗に伝えようとしているように感じた。内容が非常に刺激的で、あっという間に読むことが出来た。
	205-235	
メルハバ	14-405	小さい頃にボスニア紛争のニュースをよくやっていたのは覚えているんですが、当時はなんのことだかぜんぜん分かりませんでした。しかしこの本を読むことでやっと意味が分かり、そういう意味で大変勉強になる一冊でした。
		本の内容としては凄腕のPRマンが情報操作によって国際世論をつくり、紛争を有利に傾ける、といった話です。この本を読むと、今の時代使うべきはミサイルや銃ではなくて、情報なんだなあ、と痛感させられました。人が死なない分こっこのほうがはるかに良いと思うけれど。時折各分野について日本の実力というか現状

2008/07/01 17:28:59	392P (180分)	を書いていますが、基本ダメダメみたいです。まあ『沈黙は金』なんて言葉があるくらいだからPRが下手なのもうなずけますが。元ネタはNHKスペシャルの「民族浄化～ユーゴ・情報戦の内幕～」という番組らしく、機会があったら見てみたいと思いました。
	109-132	
pato	14-405	戦争をマーケティングする話。 舞台はボスニア紛争時のアメリカ。
2008/06/30 22:08:50	392P (360分)	内容は興味深く面白かった。 が、ときおり垣間見える、メディアは使った者勝ちという筆者の主張がジャーナリストである筆者自身を肯定しているようで少々疑問。
	all	
P-ball	1-131	情報をいかいに上手く操作し、発信するかという情報戦争について考えさせられる本です。
2008/06/21 21:15:54	131P (90分)	何気に私たちが見聞きする情報が何らかの意図を持って操作された情報だとは考えたくありませんが、“PR”の重要性を教えられました。
		PRの意味を考えさせられた一冊。また、同時にセルビア人、モスLEM人、クロアチア人の紛争について学ぶことができた。
contax139	1-384	また、現代の内容が書かれているため、自分の今の生活にも照らして考えさせられた。 普段私達は自分が見聞きした出来事よりも人から伝えられる情報が多い中で生活している。もちろん、受け取る時にその事実を信じる信じないという選択は私達にあるのだが。テレビのニュースや新聞、インターネットの記事をその瞬間は受け入れていると思う。ただ、事件や出来事を「歴史」として扱うとき、私達はその真偽や倫理的な善悪を考えていると感じる。
2008/06/12 15:21:26	384P (180分)	そして、PRが有効な外交手段になっている以上。歴史は繰り返し解釈されうるのではないか。このボスニアのPRにナチスのユダヤ人排除の概念が持ち出されたこともその出来事に対して同時代に経験しなかった私達にその出来事をリアルに感じさせ、その真偽、善悪を考えさせている。
	110-131	と思った。 内容はとても読みやすく、続きが読みたいと思いつづける一冊でした。
さっく	1-405	私たちが普段から見聞きする情報が、常に何らかの意図をもって取捨選択されたものであるということを、改めて考えさせられた。
2008/06/10 18:31:25	405P (330分)	著者が文中で述べている通り、日本は情報戦略という面でかなり出遅れている感がある。日本を取り巻く現在の世界情勢、特にアジア圏の状況を考えると、このことは日本の未来に小さくない不利益をもたらすだろう。序章に書かれたセルビア・ボスニアの現状の差を読んで、そんなことも考えてしまった。
	できれば全部	
tormenta	13-384ページ	一気に読むことができました。 ボスニア紛争前後に活躍したPR会社についてのノンフィクションのお話。
2008/06/10 12:53:53	380P (390分)	戦争をも商売にしてしまうPR会社のやり方には恐怖を感じたけれど、資本主義社会の一つのカタチとしてちょっと認めざるを得ない...という感じでした。もととなったテレビ番組「民族浄化」も見てみたいです。
	181-204ページ	

かごしま	1-405	<p>事実は小説よりも奇なり</p> <p>この本では、90年代におきた民族紛争ボスニア紛争における「情報戦争」について書かれたものです。</p> <p>「民族浄化」というキャッチコピーで世界中を震撼させたこの紛争は「黒」のセルビアと「白」のボスニアという構図で連日報道が繰り返され、最終的にセルビア（ユーゴスラビア）は国連から追放されるほど、国際世論から徹底的にたたかれました。</p>
2008/05/31 21:59:37	405P (300分)	<p>しかしこの紛争、実際にはセルビア・ボスニアのどちらが悪い、ということができるだけ単純なものではなく、国際世論を動かすほどの紛争ではなかったのです。</p> <p>この本では、米国のあるPR会社の凄腕PRマンを中心として、この紛争が情報操作によって進んでいくさまを中立の視点から、鮮やかに、しかし正確に描いています。</p>
	全部	<p>僕はこれほどおもしろい本を読んだことはない！めちゃうちゃオススメです。ただ、少しだけ読んでおもしろい、という本ではないので、できれば通読してみてください。</p> <p>船場吉兆もPR会社と契約していれば倒産しないですんだかも！？</p>
mizuhara	14-405	<p>ペンは銃よりも強い。ボスニア戦争における、PRという、情報戦争の話。「民族浄化」という言葉に代表される情報戦略によって、世界はボスニア=善、セルビア=悪という構図に染められていく。</p>
2008/05/14 17:59:14	392P (180分)	<p>まず、文章がいいので、とっても読みやすいです。当時は、まだ子供だったので、何が起こったのか特に分からず、ニュースを通して聞いたことがある単語くらい覚えている程度でしたが、裏で何が起こっていたかを通して、歴史のお勉強になりました。</p>
	205-235	

自動車爆弾の歴史

著者名	マイク・デイヴィス	発行年	2007年
出版社名	河出書房新社	ページ数	292ページ
値段	2,600円	ISDN	978-4309242732

どのページからも硝煙の臭いがする。パレスチナはもとより、アイルランド・スペイン・キプロス・インドネシア・コロンビア。世界は至るところ、すさまじき憎悪に満ちている。自動車爆弾というとてもコアなターゲットを扱いつつも、惨劇の歴史はそのまま、ここ50年の紛争の歴史として読めるしくみ。

少し気取った文体と、どっさり出てくる固有名詞にひるまず読み進めてゆけば、目の前に地獄の釜の蓋が開く。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
わくわくさん	1-100	安価で命中率、破壊力抜群の自動車爆弾について、淡々と描かれている。辛口の批評家と評される著者の淡々とした記述は、自動車爆弾事件の原因である差別や貧困といった問題を痛烈に批判しているようにも感じられた。
2008/08/17 04:45:20	100P (60分)	
sours	1-68,288-304	地名、人物名、団体名などについての膨大な数の固有名詞に打ち負かされ、早々にギブアップ。本読みの得意な人にとっては魅力的である

2008/08/09 01:58:02	85P (90分)	う饒舌な文体も、ぎこちない訳と自分の教養&読書力不足のせいで、かえってしんどく感じてしまった。
		世界中の不満を抱えたマイノリティに自動車爆弾がもたらした功績について多少の理解をすることができたと思う。「貧者の空軍」とは言い得て妙だ。
まるきん	1-24	テロは怖い
2008/08/05 12:55:39	24P (20分)	テロの歴史に興味はあるけれど、凹みそうだったので途中で打ち切りました。
	1-5	
mizuhara	5-31	非常に安価で、人々を恐怖のどん底に陥れる事ができる、自動車爆弾というものについて、淡々とかかれています。
2008/07/15 12:29:56	27P (20分)	ただ、淡々とかかれていますので、イマイチ伝わってきませんでした。
SOUTHERN (° °)!	212-298	皆さんが書いている通り、テロ事件について歴史が淡々と書かれています。
2008/07/03 10:57:37	86P (60分)	章ごとにある、小さい字で書いてあるコメントが深くて好きです。「ビンラディンは勝ち続けている」とか。
	212-259	
P-ball	137-259	何ポンドのどんな爆弾によってどのような被害が出たなど自動車爆弾によるテロ事件が淡々と綴られています。自動車爆弾白書みたいなものですかね。
2008/05/02 22:56:04	123P (60分)	政治的背景や歴史に特に興味がなく、ただ単に自動車爆弾に興味があってこの本を手にとった私にとっては使われた爆弾とその量、テロの手口、被害状況を知ることができ楽しく読めました。
のり子	7-46, 82-136	自動車爆弾を使ったテロ事件の歴史を追った内容。書き手の感情的な表現が入ることなく、誰が何を目的で行ったのか、何kgのどんな爆薬で、どれくらいの被害が出て...といったような、自動車爆弾の技術や手口がどう変化していったのかが、たんたんと書かれています。
2008/05/01 19:49:30	95P (360分)	読み手の感情移入もしづらい分、テロ・自動車爆弾というものに、もともと興味を持っていないと、読み進めるのは辛い気がします。また知らない固有名詞(一般ニュースレベルだと思いますが、私はわかりませんでした。)が、あまり解説されず多く使われていることも、読みにくさの一因でした。(和訳がうまくなく、読みづらいつ感じるところも多くありました。)

カラシニコフ

著者名	松本仁一	発行年	2004年
出版社名	朝日新聞社	ページ数	257ページ
値段	1,400円	ISDN	978-4022579294

今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
読書中	1-60	読みやすい、というか、どんどん読み進んでしまう感じがしました。目次の時点で衝撃的なタイトルが並んでいて面食らいましたが、中身も同様に重たかったです。時間の都合で1章しか読んでないけど、そのうち続きも読みたいです。
2008/08/18 23:15:12	60P (60分)	

つばき	1-140	カラシニコフ人気すぎーなー あまりに手に入らないので、 買っちゃいました。 あとで続き読まなきゃ
2008/08/18 21:59:13	140P (120分)	
アイを叫んだケモノ	1-97	平和のために開発したAKで世界 は平和にならなかった。 原子力の発明を考えながら読ん だ。 科学者は心を守って科学を捨てるか、 心を捨てて科学を発展させるか。 そう感じずにはいられなかった。
2008/08/18 13:44:06	98P (60分)	
	76-92	
tormenta	12-262	どうしても読んでみたかったこの 作品。 読み始めたらどんどん引き込ま れました。 でも・・・本当に怖い。 私たちはこんな平穏無事に毎日 を送っているけれど、同じ地球 上にこんな現実があるのだと考 えさせられました。 それでもなかなか信じられない ですけど・・・。 変な感じの余韻が残る、後味の 悪い1冊でした。 でも、読んでよかったと思いま した。
2008/08/18 11:21:43	251P (300分)	
	12-60	
ミソカツ	1-60	銃と刀の比較が特に興味深かつ た。銃という武器の出現そのも のが人々の戦い方を変えてし まった。武士なんかは非常に男 らしいと思う。 子供は武士にはなれない。でも 銃なら子供でも撃つことができ るんだなあとしひしと感じ た。
2008/08/17 05:33:22	60P (45分)	
	46-49	
わくわくさん	1-200	丈夫で幼い少年少女にも簡単に 扱える自動小銃AK47（カラシニ コフ）。 このカラシニコフを切り口にア フリカでの紛争について詳細に 描いている。内容的には重いはず であるが、カラシニコフを通 したストーリーを盛り込むこと で、読み易いものとなっている。
2008/08/17 04:50:58	200P (200分)	
sufjan	1-263	カラシニコフ。 すごいね、この銃は。 壊れないし、扱いやすい。 でもだからこわいね。
2008/08/16 16:40:47	263P (180分)	
	1章	
Nimrod	38ページまで	あまり時間がなく、じっくり読 むことができなかった。
2008/08/12 17:55:46	38P (20分)	自動小銃、カラシニコフ。これ を持ち、ディカプリオの顔がプ リントされたシャツを着ている 少年。こんな表紙の本は、しば らくの間お目にかかれないう と思う。
男爵いも	1-42	とても読みやすいいい本なの ですが、少年兵や少女兵につ いて知って、読んでいて悲しい 気分になりました。とても考え させ
2008/08/06 15:44:13	42P (20分)	

	1-35	られます。
SBM	12-42	AK47が銃の中でも名作といわれているのは聞いたことがあるが、銃の名作 = 優れた殺人兵器なのだと改めて思った。NHKのドキュメンタリーをそのまま文章にした感じ。ただ、全体をぱらぱら見て思ったのは、この著者インタビューの際、あまりにもズカズカと踏み込みすぎてるような気がした。確かに踏み込まなきゃ分からないこともあるけどやり方も他にあるのじゃないかなと。最近のマスコミにありがちな傾向が見られるので 3つで。
2008/08/04 18:23:49	31P (50分)	
	2章	
メルハバ	1-269	去年評判の良かった本だったので手にとってみました。AK47のことは聞きかじった程度には知っていたけれど、まさか自分の半分以上の年の子供が使用しているとは思いませんでした。しかし、AK47の開発者は自分の国を守るため、今現在この銃を使っている人たちは自分の生活を守るためにAK47を使用しているわけで、一概にこのような人達を責めることは出来ないと思いました。銃とはほぼ無関係な国に住んでいる自分達ができることは何かないのか?などと色々と考えさせられる一冊でした。
2008/07/27 13:45:48	269P (120分)	
	62-104	
contax139	1-104	なぜカラシニコフと呼ぶのかがわからないまま、1章を読み続けていた。11歳の少女が人を殺すための銃がAK47(カラシニコフ)。2章を読めばなぜその銃がこの世に生まれたのかがわかる。もともとは、子供が使うための銃ではなかったこと。できれば、何章かにわたって、特に2章と他の章という読み方がおすすめ。
2008/07/22 14:36:18	104P (70分)	
	62-69,92-97	
ヨーロッパ大好き	1-100	最初に興味を持たせたのはこの有名な銃の名前だったが、後ではちゃんと内容にはまった。
2008/07/13 22:32:22	100P (70分)	
crystal	1-152	前半部分はアフリカの紛争の様子が描かれている。多くの若い兵士が起用され、ゲリラによる暴力が残酷さを増していく原因として、カラシニコフの普及を挙げている。そこから発展して、カラシニコフの歴史へと話は展開している(中間部分)。とても若い、純粋な表情をした子供たちが銃を持つ姿、また、貧しい生活を感じさせない彼らの笑顔は、言い知れない違和感を感じさせる。この事実を知った自分には一体何ができるのだろうか、と考えさせられる。
2008/07/08 22:24:50	152P (90分)	

本多小松	1-166	世界には紛争が絶えず武器が散乱している地域が存在しておりその社会の現状を記した本です。少年少女が武器を持ち残酷な行為も行われているようです。また、武器の開発に携わった人々の話もありいろいろと衝撃をうける一冊でした。
2008/07/08 08:07:34	166P (100分)	
マーシャル	1-269	初めの数ページも読むとどんどん引き込まれていきます。カラシニコフ銃を切り口にアフリカが抱えている問題をうまく描き出していると思います。
2008/07/07 10:34:04	269P (120分)	
	12-60,154-184	
シマウマ	全て	第1章はまあ予想通りの感じ(もちろん衝撃的でしたが)でした。そしたら第2章で毛色の違う話になって驚きました。立場が違えば考え方も違うなと思いました。
2008/07/03 22:34:08	269P (180分)	
	第1章	
パトロン革命	1-91, 106-248, 260-269	10頁も読んだらめり込んでしまいました。幸か不幸か、ソマリアや南アの暗い歴史を通して、日本という国がいかに平和かを知ることができました。殆ど全てを読みましたが、全体的に「世界の人々にとって最も必要な道徳の教科書」というイメージを抱きました。紛れもない真実だからこそ感じる衝撃を、味わってもらいたいという意味で星4つにしました。
2008/07/02 16:31:32	244P (150分)	
	260-262	
P-ball	1-104	AK47で武装した少年、少女兵たちの話はずっしりと重い話だが、AK47の如何をどうこう言うのはおかしいと思う。
2008/07/01 01:09:02	104P (60分)	誰でも簡単に扱える銃AK47を開発したカラシニコフは偉大な人物だと思うし、AK47も素晴らしい武器だと思った。
	97-101	日本の自衛隊も廉価なAK47にすれば防衛費を幾分か削減できるのに...
ロマンチストの資格	1-269ページ	カラシニコフ銃を中心に、アフリカの内戦・治安問題を多面的に扱っていて非常に興味深い。
2008/06/23 12:43:51	269P (180分)	反政府を掲げ、立ち上がるゲリラが悪いのか？ 前線で殺戮、略奪をする少年・少女兵は悪いのか？ 壊れない銃、カラシニコフの設計者が悪いのか？ 壊れた政府の指導者が悪いのか？ 日本のODAは？ 「誰かがすべて悪い」と決めつけられない問題の多面的複雑さ。 その解決策のひとつが、後半に語られるソマリランドなどの例だろう。 「少年・少女兵がかわいそう」「ゲリラは悪いやつだ」「カラシニコフは倫理ない技術者」と

		<p>このような一面的なとらえ方ではなく、ぜひ全体を通して問題の所在と解決法について、自分なりに考えてみてほしいと思う一冊だった。</p>
yew	1-164, 193-208, 260-269	前評判通り、ずっしりとした内容でおもしろい本だった。読んで損はしないと思います。
2008/06/23 11:36:31	190P (150分)	印象に残った文章をあとがきから引用。 『国家の力の根源にあるのは、どう考えても武力です。(中略)問題は、国家がその武力をコントロールできないところにあるのです。』
	76-82	
白猫	1-269	カラシニコフは、平和の為にAKを開発した。自国は平和になったかもしれないが、世界は平和になったとは言えない。
2008/06/17 10:08:40	269P (240分)	
	第一章	遠くの国だが、現実の話だと思うと、とても悲しくなる話だった。
ジョコビッチ	1-262	文章力に優れ、一気に読み進まされてしまう迫力と臨場感がありました。
2008/06/16 14:46:23	262P (150分)	さらに、主観的になりすぎておらず、筋の通ったルポタージュは圧巻でした。
	第6章	
ひさひさ	1-232ページ	銃が、国家を破壊してしまうほど影響力があることがショックだった。アフリカの国家の過去と現状についても考えさせられた。
2008/06/14 12:40:09	232P (150分)	
	第1章	
SOUTHERN (° °)!	1-262	興味を持って読めました。スカスカの隙間、少ない部品、重いスライド、短い薬莢、この4つの斬新かつ合理的な設計が理想的な兵器となりえたわけですが、それによって、戦争社会の発展、国の変貌、そして日本人の生ぬるい見方からすれば異常と思えるような人々への兵器依存と人格形成の影響へとひろがったんだなとおもいました。技術が世界を動かす、影響するというのはまさにこのことなんだなとおもいました。
2008/06/12 17:12:58	262P (240分)	
	設計などについて興味があれば、第二章。そうでなければ、第4章以降。写真を全体にながめるだけでもよし	
hiro	1-269	カラシニコフから広がっていく世界観に引き込まれて、一晩で一気に読み終わってしまいました。 アフリカの過酷な現状、AKの開発経緯、開発者の真意と現在のAKのギャップなど、興味を引かれる場面は多々ありましたが、個人的にソマリランドに関

2008/06/10 16:33:19	269P (180分)		する部分が面白かったです。もともとの国の存在は知っていたのですが、他のアフリカの国における行政のひどい状況（失敗した国々と呼ばれている）をこの本の前半で知ってしまうと、自分たちで国を作っていこうとしているソマリランドの人々を応援してあげたい気持ちになります。
		226-269	
モンモンモン		1-269	アフリカの悲惨な状況に衝撃を受けます。拉致、強奪、レイプ...こんな世界は、私たち日本人にとって地獄としか思えません。 ただアフリカ諸国全てが、国づくりに失敗したわけではないようです。その代表例がソマリアから独立したソマリランド。そこは、ソマリアの首都モガディシオのように銃を持ち歩く人々は見られず、貧しいながらも安心して暮らせるそうです。やはり暴力は、国をダメにするのでしょう。 映画「ブラックホークダウン」の話も少し出てきます。映画を観たときは、あまりピンときませんでした。この本でソマリアの実態が分かりました。
2008/06/02 13:15:30	269P (300分)		
		第一章	
ivane		12-60,106-152,226-269	写真の多さと字の大きさとで、どんどん進みます。 課題図書(?)の中にアジアの悲惨さを描いている本もありますが、こちらの方が悲惨です。ですが自分の体感した衝撃度は、正直アジアの方が大きかった。それだけ自分の中でアフリカという国が遠い存在なのかと実感させられました。
2008/05/31 13:22:10	140P (90分)		
		106-113ページ	
Www		1-269	カラシニコフの製造者のヒストリーはとても面白かった。なんかの日本的な精神の持ち主だと思った。さらにアメリカの銃製造者との話は非常に興味深かった。
2008/05/30 16:40:45	269P (200分)		
		2章	
は る ゆ き		1-269	圧倒的な文章力にぐいぐいと引き込まれた。 特に第一章は必読。非常に刺激的な内容であり、いかに私たちの生活が安全で恵まれたものであるかに気づかされる。 平和とはいったいなんであろうか。そんなことを考えずにはいられなくなる本である。
2008/05/30 15:33:25	269P (240分)		
		12-60	
camel		1-269	立ち読みポイントにも書いた、2人の少年兵・少女兵についての部分はとりあえず読むべきだと思う。
2008/05/27 10:02:41	269P (200分)		
		12-35	

たつきー	1-269	とても読みやすい作品で、一気に最後まで読んでしまいました。
2008/05/20 12:53:23	269P (150分)	AK47という銃を中心に、自分とは関係のない世界でいかに悲惨で残忍なことが起きているかが書かれていました。
	154-181	本文とは関係ないんですが、AK47という名前をどこかで聞いたことがあると思っていたら、メタルギアというゲームでした。
goran	62-101,154-181	このゲームをやったときのことを思い出しました。このAK47という武器は非常に使いやすく、多用していた気がします。
2008/05/07 13:01:48	66P (60分)	冷戦後に世界中で起こっていることをカラシニコフと関連して、述べている。
	154-181	「失敗した国々」という言葉が印象的だった。
pato	1-269	BSのドキュメンタリー番組を見ているような感じで非常に読みやすい作品だった。1から6章のうち1,2,3章は客観的で興味深い。一方、後の章では著者が内容を盛っていて"ちょっと重い"と感じた。
2008/05/07 12:31:56	257P (180分)	まあ、A社ですからね。
	61-104 (2章)	
さっく	1-269	カラシニコフ銃による世界中の悲劇や設計者の思いなどは、最近では比較的よく知られたことだと思う。この本で良かったのは、銃を通して、国家の在り方、人間の在り方、平和とは、ということを考えさせてくれるところだった。
2008/05/01 18:35:56	270P (220分)	失敗した国家では、人々は平和を望みながらも銃を手放さない。「所持している銃を提出すれば学校に行ける」という取り組みでも、信頼性の高いAKは僅かしか回収されないという事実は衝撃的だった。一方で、銃を抑え込むことに成功し、平和を取り戻した国家もある。これらを読んで、根底にある問題が銃の存在ではなく人間の質であることが良くわかった。
	154-181 , 226-260	平和ボケした日本人には語れない平和への思いをたくさん感じた。
特になし	1-269	AK47をめぐる物語がさまざまな視点からよく捉えられていると思う。悲惨な現状、設計者の思い、その悲惨な現状から脱却しようとする人々など・・・。
2008/05/01 17:05:34	269P (180分)	人間の本质がいったいなんなのかというのを考えさせられる一冊だと思う。
	226-232	

かごしま	1-269	<p>この本では、「カラシニコフ」という銃と個人との関わり（設計者、管理者、被害者、使用者）を通して、国による統治が進んでいない「失敗国家」の姿を描いています。</p> <p>「当該者の眼」という視点から語られるため、銃のリアルな怖さが伝わってきますが、一方で、「失敗国家」の中で懸命に生きる彼らの姿勢からは人の強さも伝わってきます。</p>
2008/04/24 21:13:14	269P (240分)	<p>おすすめは4章、5章、6章です。</p> <p>4章は赤道ギニアを通して「失敗国家」の概念を説明しています。</p>
	第4章	<p>5章は南アフリカを通して「失敗国家」の現状を紹介しています。</p> <p>6章はソマリランドを通して「失敗国家」からの脱却を図る地域を紹介しています。</p> <p>1章ごとに完結するので、1章だけ読んでも楽しいと思います。</p>

[TOPへ](#)

絵はがきにされた少年

著者名	藤原章生	発行年	2005年
出版社名	集英社	ページ数	229ページ
値段	1,600円	ISDN	978-4087813388

1葉の写真で分かったつもりになってはいけない。「ハゲワシと少女」の裏側の物語をこうやって教えてもらえれば、確かにそう。けれど、世界は説明なしの写真であふれている。

せめて、簡単に分かったつもりにならないことで、しっかり現実を見据えよう。そんな気概で著者はアフリカの現実を歩く。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ミソカツ	17-37、70-116、113-157、209-246	一つ一つの話が短く完結しているので濫読という講義の趣旨に非常に適している。 そしてそこに書かれている一つ一つのないところがまた素晴らしい。 ここに書かれている事実に少しでも触れることが出来れば、途上国の人々に対する考えや行為が変わるだろう。 募金をしたとしても一体そのお金がどのように使われ、現地の人の生活に具体的にどのような影響を与えるのだ
2008/08/17 05:08:41	151P (90分)	

	209-227	ろうか、など自分のこれまでの行動を考え直すきっかけを与えてくれた。
さわら	1-245	読んでからコメントかくまでに時間が空いたのでなんだか忘れちゃってますが。
2008/08/13 18:56:57	245P (250分)	割とさりと読める本。 3章が一番面白いかと思いきや、1章が一番好きでした。
	とりあえず1章	読みにくいと思ったのは、ハゲタカと少女の写真を撮ったカメラマンの友人の言葉遣いくらいですかね。
さっく	1-245	第3部の「お前は自分のことしか考えていない」に集約されているように、私たちが典型的なアフリカ像を勝手に想像し、「アフリカの人々を救うためには」みたいな傲慢なことを考え、無意識のうちに見下しているのだということを思い知らされた。
2008/08/13 11:09:10	245P (260分)	本の中に書かれているアフリカの姿、アフリカ人が感じていることなどは、自分の想像していたものとはだいぶ違って新たなものの見方を教えられ、ありきたりな一般論で語ってはいけないと感じた。
鱒鮭	1-36	つまみ読みのつもりで序章だけ読んでみたが、なかなか深い内容を想像させる冒頭。
2008/08/12 16:08:03	37P (15分)	時間があれば残りも読みたい。
sugar	1-36 183-245	209-226は、今まで自分が言いたかったけれどもうまく言葉を見つけられずにいた事柄が あますことなく表わされていた。
2008/08/08 11:57:26	97P (60分)	「救う/救われる」関係の中ではたらく力の非対称性、「救う」側に立ちたがる人間の内に潜む善意の傲慢さ。
	209-226	課題のしめきりのため、つまみ読みしかしていないがもう一度ゆっくり読みたいと思った。 あと、ゲバラってばおせっかいですね。
男爵いも	1-50,89-115	これまで抱いていたフリカのイメージが少し変わりました。
2008/08/07 12:25:37	76P (30分)	とても読みやすい本ですんなりと読むことができますが、いろいろと考えさせられます。
パトロン革命	17-245	今までのアフリカに対するイメージの規模の小ささが実感できました。この作品を読んでから冒頭の写真を見直すと、最初に見たものとは全く違って見えました。自分の知っていることは、アフリカに限らずものすごく狭い知識だけなのかもしれないな、と感じました。絵はがきのようにして世界に知らせるべきは、わざとらしい構図ではなくアフリカの現実だと思いました。
2008/07/23 12:01:35	229P (180分)	
	114	
たっきー	1-115	評価が高かったので手に取ってみました。 土地によっては、一見何気ない写真がいろんな意味を秘めているものなんだと考えさせられました。
2008/07/14 17:41:09	115P (90分)	文章はとても読みやすいタッチで書かれていて、グイグイ進めるんですが、中々ズッシリと心に残るものがあります。
	1-9	
モンモンモン	1-179, 227-245	この本を読むと、貧困のイメージが変わります。私達、先進国がアフリカの貧困を哀れむような目で見るのは、著者によるとピント外れなことをしているようです。
2008/07/12 19:48:22	198P (200分)	知らぬ間に自分が絵はがきにされ、その絵はがきが勝手に世に出回っている。絵はがきだけではないです。彼らは、多くのことを知らず生活しているのです。それが良いのか悪いのかは不明ですが。
knennn	1-115,209-226	普段、見たり聞いたりするアフリカというのは現地の人にとってのアフリカなのではないという当たり前だけれども忘れてしまいがちなことを思い出しました。この本に書いてあるアフリカも現実的なものかどうかわかりません。でも、本に出てくる人がいるのだと思えば、遠いアフリカもほんの少し身近に感じられるのではないでしょう。
2008/07/08 00:43:53	134P (60分)	
	89-115	

Nimrod	1-156ページ	著者が日本人であるだけあって、文章全体が無理なく、テンポよくスムーズに読める。特に現地の住民の言葉の数々は、日本語で表現されていながらまるで目の前で言い放たれているかのような錯覚を覚えた。
2008/07/03 15:30:10	156P (130分)	
	巻頭のカラー写真	数枚の写真に秘められた数奇な運命の数々。第三世界で起こっている出来事は我々にはあまりにも、遠い。
SEM	1-50、89-115	「ハゲタカと少女」はピューリッツァー賞を受賞した写真の展示会で一度見たことがあって知ってはいたが、写真を撮った舞台裏があんなことになっていたとはと考えさせられる内容でした。
2008/06/16 22:29:47	77P (60分)	またアフリカ人のモノの見方が垣間見れたような気がした一冊でした。
	17-36	
特になし	1-115,209-226	アフリカ問題の難しさというのがうまく書かれていると思います。
2008/05/30 12:50:42	133P (100分)	特に援助の話で「食料なんかはいらない、肥料などをくれるほうがいい」といった意見は目からうろこでした。文化による人間性の違いを超えるのは大変なことだと気づかせてくれる一冊です。
	209-226	
みけもどき	1-115,209-226	この本のタイトルと表紙の少女の写真に惹かれて読んでみました。
2008/05/13 12:54:03	133P (120分)	第3部2章「お前は自分のことしか考えていない」で、自分の考え方が偏っていて、上から目線なのに気づきました。
	209-226	読みやすい本ですが、重かったです。
Www	1-179	まず有名な写真である「ハゲタカと少女」が話題に上がっている。
2008/05/12 19:52:51	179P (200分)	この写真からは、飢えているアフリカの少女が死んでいくのをハゲタカが待っているかのようにみれる。しかし事実はそうではなく、その近くにはその少女の母親がいたことが今本で明らかにされており、この写真をとったカメラマンはこの後悩みぬいて自殺してしまったことも書かれている。
	1-10	さらにそれ以降は、アフリカの地方独特の文化や人間性について細かく書かれている。物語のような起伏にとんだ文脈でないが、丁寧に書かれており非常に興味を持って読み進めることができる。お勧めの本の一つだ。
かごしま	1-245	この本では、アフリカ特派員の筆者が、現地取材した際のショートストーリー集です。 ですので、一部分だけ読んでも十分おもしろいです。 全体として、取材によって得られた「生の声」を尊重し、脚色をしないよう努力しながら、 「部外者」たる自分の考えと 「当事者」たる現地住民の人たちの考え を対照的に描いているように感じます。
2008/05/09 17:35:11	245P (200分)	本の底流にあるのは 「マクロ的視点とミクロ的視点だと、 人が等身大で感じるのはミクロ的視点であり、 ミクロ的な視点なしではアフリカは語れない」といった考えだと思います。 ミクロ的な視点からすると、貧しいから不幸だとは言いつ切れぬ、というか、 世界は白と黒では表せない ということのようです。

筆者の思いが割とストレートに書かれているのが

	209-226	<p>3-2「お前は自分のことしか考えていない」で、貧困援助に対する筆者の考えが述べられています。</p> <p>あと、個人的には 1-2, 1-3, 3-3 が好きです。</p> <p>[内容]</p> <p>1-2 子供の視点からみるアフリカ</p> <p>1-3 黒人に夫を殺された白人と、白人を殺してしまった黒人</p> <p>3-3 ルワンダにみる差別の現状</p>
honyalala	1-132	<p>非常に読みやすい本でもあるし、内容も新鮮なものであったので読む価値ありだと思います。特に、今まで僕らが考えていた、あるいはメディアが報じてきたことだけがもちろん全てではなく、それ以上の悲惨な状況もあるし、予想にもしなかった彼らの喜びもあるということ知れた気がします。アフリカなどの発展途上国に興味があるかたは是非一読した方が良いなと感じました。</p>
2008/05/07 12:42:24	132P (120分)	
	116-132	
ivane	17-36,89-115,183-245ページ	<p>字が大きめで、かつすごく読みやすいので、ページ数を稼ぎたい人にはすごくお勧めです。</p> <p>ヨハネスブルグと聞いて、ヨーロッパの地名かと勘違いしてしまうぐらいアフリカについて何も知りませんでした。ただ、これを読んだことでゼロが1になったかと。ただ、1を知ったからこそ勘違いしていることがたくさんあるんだなと考えさせられました。</p>
2008/05/04 10:18:51	104P (90分)	
	209-215ページ	

[TOPへ](#)